

黒田垣外遺跡・ミカド遺跡・増田遺跡・見城垣外遺跡

2001年3月

長野県飯田市教育委員会



黒田垣外遺跡出土



見城垣外遺跡出土



黒田垣外遺跡出土

序

飯田市上郷地区は飯田市街地の北に位置し、天竜川河岸から木曾山脈前山の麓までの東西に細長い範囲を占め、川沿いの平坦地から段丘面・扇状地等に比較的広い耕地が広がっています。

このような地形を利用して、私達の先祖は生活を営み、その痕跡が遺跡として現代に残されてきています。これらは私達の地域社会や文化を形作ってきた様々な証であり、できる限り埋蔵文化財として現状のまま後世に伝えることが私達の責務であります。

近年、上郷地区は飯田市街地近郊という場所柄、宅地化や道路整備が進んでおり今回、県道飯島・飯田線のバイパス工事が計画されました。予定地には、縄文時代から弥生時代にかけての集落遺跡がいくつも確認されており、関係各方面との協議等の結果、工事実施に先立って緊急発掘調査を行って、記録保存を図ることになりました。

調査結果については本文で述べられているとおり、上郷地区上段の縄文時代から弥生時代の集落の様子が明らかになりました。調査で得られました様々な知見は、これからの地域の歴史を知っていく上で貴重な資料となると確信しています。

最後になりましたが、調査実施にあたり文化財保護の本旨に多大なご理解とご協力をいただいた飯田建設事務所、隣接地の方々をはじめ、本調査に関係された全ての皆様方に深く感謝申し上げます。

平成13年3月

飯田市教育委員会

教育長 富田 泰 啓

例 言

1. 本報告書は平成9年度より12年度にかけて行われた緊急地方道整備（B）工事 飯島飯田線工事に先立ち実施した、飯田市上郷地区所在の埋蔵文化財包蔵地「黒田垣外遺跡」「ミカド遺跡」「増田遺跡」「見城垣外遺跡」の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は飯田建設事務所からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 本調査は平成9、10、11年度に現場作業を行い、平成10、11、12年度に整理作業を行った。
4. 調査実施にあたり、基準点測量・空中写真撮影を株式会社ジャステックに委託した。
5. 発掘作業・整理作業にあたり、黒田垣外をKIT、ミカドをMKD、増田をMSD、見城垣外をKNJの略号で用い、遺跡内の調査区へはそれぞれ中心地番を付して区別した。
6. 本報告書では以下の遺構番号を使用している。竪穴住居址－SB、掘立建物址－ST、土坑－SK、溝址－SD、方形周溝墓－SM
7. 土層の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。
8. 本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により坂井・福澤が行った。
9. 本書の執筆と編集は調査員の協議により坂井・福澤が行い、小林が総括した。
10. 本書の写真は遺構写真については坂井・福澤が、遺物写真については西大寺フォト 杉和樹氏に委託しておこなった。
11. 石器実測図の表現については、「T」刃潰し加工・「K」敲打・「S」研磨を示す。
12. 本書の遺構図の中に記した数字は、検出面・床面からそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。
13. 本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

本文目次

序		2 遺構と遺物	8
例言		黒田垣外遺跡	8
目次		ミカド遺跡	30
第Ⅰ章 経過		増田遺跡	36
1 調査に至るまでの経過	1	見城垣外遺跡	50
2 調査の経過	1	第Ⅳ章 まとめ	
3 調査組織	2	黒田垣外遺跡	70
第Ⅱ章 遺跡の環境		ミカド遺跡	71
1 自然環境	4	増田遺跡	71
2 歴史環境	4	見城垣外遺跡	72
第Ⅲ章 調査結果		参考文献	73
1 調査区の設定(挿図3)	8	報告書抄録	145
		奥付	146

挿図目次

挿図1 調査遺跡位置図	3	挿図20 KIT 周辺ビット図5	27
挿図2 調査位置及び周辺遺跡地図	5	挿図21 KIT 周辺ビット図6	28
挿図3 基準メッシュ図区画調査位置	7	挿図22 KIT 周辺ビット図7	29
挿図4 KIT 基本層序	8	挿図23 MKD SB03	30
挿図5 KIT 全体図 $\frac{1}{300}$	9	挿図24 MKD 全体図 $\frac{1}{200}$	31
挿図6 KIT SB49・50	11	挿図25 MKD SD09・10	32
挿図7 KIT SB51	12	挿図26 MKD SK19	33
挿図8 KIT SB52	13	挿図27 MKD 周辺ビット図1	34
挿図9 KIT SM12・13	15	挿図28 MKD 周辺ビット図2	35
挿図10 KIT ST09・10	16	挿図29 MSD 基本層序	36
挿図11 KIT SD21・22	17	挿図30 MSD 全体図 $\frac{1}{150}$	37
挿図12 KIT SD20・23	18	挿図31 MSD SB19・20	39
挿図13 KIT SK111~121	20	挿図32 MSD SB21・22	41
挿図14 KIT SK122~131	21	挿図33 MSD SB23・24	42
挿図15 KIT SK132~139	22	挿図34 MSD SK87~96	44
挿図16 KIT 周辺ビット図1	23	挿図35 MSD SK97~107	45
挿図17 KIT 周辺ビット図2	24	挿図36 MSD SK108~114	46
挿図18 KIT 周辺ビット図3	25	挿図37 MSD 周辺ビット図1	47
挿図19 KIT 周辺ビット図4	26	挿図38 MSD 周辺ビット図2	48

挿図39	MSD	周辺ピット図3	49	挿図49	KNJ	SK10~12・14~18	60
挿図40	KNJ	基本層序	50	挿図50	KNJ	周辺ピット図1	61
挿図41	KNJ	全体図(1) $\frac{1}{150}$	51	挿図51	KNJ	周辺ピット図2	62
挿図42	KNJ	全体図(2) $\frac{1}{200}$	52	挿図52	KNJ	周辺ピット図3	63
挿図43	KNJ	SB01	53	挿図53	KNJ	周辺ピット図4	64
挿図44	KNJ	SD01・05	54	挿図54	KNJ	周辺ピット図5	65
挿図45	KNJ	SD02	55	挿図55	KNJ	周辺ピット図6	66
挿図46	KNJ	SD03	56	挿図56	KNJ	周辺ピット図7	67
挿図47	KNJ	SD04	57	挿図57	KNJ	周辺ピット図8	68
挿図48	KNJ	SK01~09	59	挿図58	KNJ	周辺ピット図9	69

遺物図版目次

第1図	KIT	SB49	74	第9図	MSD	SK106・SK107・SK108・ SK111・SK112・SK113	82
第2図	KIT	SB50・SB51・SB52	75	第10図	MSD	SK114・遺構外	83
第3図	KIT	SB52	76	第11図	MSD	遺構外	84
第4図	KIT	SM12・SM13・SD20・ SD21・SD22・SD23・ SK132・SK134・SK136	77	第12図	MSD	SB22・SK104・SK108・ SK112・遺構外	85
第5図	KIT	遺構外・SB51・SM12 MKD SD09・SD10	78	第13図	KNJ	SB01・SD03	86
第6図	MSD	SB19・SB20	79	第14図	KNJ	SD03・SD04・SD05・ SK03・SK04・SK05・ SK07・SK09	87
第7図	MSD	SB20・SB21	80	第15図	KNJ	SK16・SK18・遺構外	88
第8図	MSD	SB22・SK90・SK93・SK95・ SK97・SK98・SK99・ SK100・SK103・SK104	81	第16図	KNJ	SD04・SD05・SK07・ SK14・SK16・遺構外	89

写真図版目次

○発掘調査

黒田垣外遺跡

図版1	遺跡調査区全景・調査区全景	91
図版2	調査区全景	92
図版3	SB49・SB50	93
図版4	SB51・SB51 炉	94
図版5	SB52・SB52 遺物出土状態	95
図版6	SM12・SM13・SM13 出土壺	96

図版7	ST09・ST10	97
図版8	SD20・SD21・SD23	98
図版9	SK111・SK112・SK113・ SK114・SK119・SK120・ SK121・SK122	99
図版10	SK123・SK124・SK125・ SK126・SK127・SK128・ SK129・SK130	100

図版11	SK131・SK132・SK133・ SK134・SK135・SK136・ SK138・SK139……………	101
図版12	重機表土剥ぎ作業……………	102
図版13	調査風景……………	103
ミカド遺跡		
図版14	調査区遠景・調査区全景……………	104
図版15	ピット・SB03……………	105
図版16	SD09, 10・調査風景・ 重機表土剥ぎ作業……………	106
増田遺跡		
図版17	調査区全景……………	107
図版18	調査区全景・SB19……………	108
図版19	SB20・SB20 甕……………	109
図版20	SB21・SB21 炉……………	110
図版21	SB22・SB22 炉・SK87……………	111
図版22	SB23・SK87・SK88・ SK90・SK91・SK92……………	112
図版23	SK93・SK94・SK95・SK96・ SK97・SK97 出土土器・ SK99 出土土器・SK99……………	113
図版24	SK101・SK102・SK110・ SK98, 100・SK103……………	114
図版25	SK106・SK108, 111・SK109・ SK114・SK113 出土土器・ SK113……………	115
図版26	調査風景……………	116
図版27	実測作業風景・ 重機表土剥ぎ作業……………	117
見城垣外遺跡		
図版28	調査区遠景……………	118
図版29	調査区全景……………	119
図版30	調査区全景……………	120
図版31	SB01・SB01 炉・SB01 ピット…	121
図版32	SD02・SD03・SD04・SD05…	122

図版33	SK01・SK02・SK03・SK04・ SK05・SK06・SK07・SK08…	123
図版34	SK09・SK10・SK11・SK12・ SK14・SK15・SK16・SK17…	124
図版35	SK18・試掘調査風景・調査風景…	125
図版36	作業風景……………	126
図版37	空中写真撮影風景・ 基準点設置作業・測量作業…	127
図版38	重機表土剥ぎ作業……………	128
○整理作業		
図版39	遺物写真撮影作業・ 遺物実測作業・図版作成作業…	129
○遺物		
黒田垣外遺跡		
図版40	SB49……………	130
図版41	SB50・SB51・SB52……………	131
図版42	SB52……………	132
図版43	SB52・SM13・SD, SK・ SM12・遺構外……………	133
図版44	遺構外・SB, SM……………	134
ミカド遺跡		
図版44	SD……………	134
増田遺跡		
図版45	SB19・SB20・SB29・SB20…	135
図版46	SB21・SB22・SK……………	136
図版47	SK97・SK99・SK114……………	137
図版48	SK・遺構外……………	138
図版49	遺構外……………	139
図版50	SB・SD・遺構外……………	140
見城垣外遺跡		
図版51	SB01……………	141
図版52	SD03・SD04・遺構外……………	142
図版53	SK, SD・SK143……………	143
図版54	遺構外・SD, SK・遺構外…	144

第 I 章 経 過

1 調査に至るまでの経過

平成9年4月、飯田建設事務所長 野本宏より、上郷地区県道飯島飯田線（上郷～大門町）建設に係る埋蔵文化財発掘の通知が提出された。この事業は、平成6年度より座光寺～上郷間建設工事が実施されている続き路線で、一部上郷地区黒田大明神原遺跡は、平成8年度に発掘調査が終了していた。（飯田市教育委員会 1999. 3 黒田大明神原遺跡Ⅱ）

平成9年9月18日、飯田建設事務所と飯田市教育委員会の間で協議を行い、今次工事において係る遺跡が黒田垣外・ミカド・増田・原の城・見城垣外・宮の前と6遺跡となること、調査は平成11年度にかけて実施すること、報告書は事業完了年度である平成12年度に刊行することを確認し、同日発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査に着手した。

調査は、用地買収・移転が終了した部分より順次行うこととなるため、各調査地点の代表地番を付して、記録することとした。そして平成9年度は、遺構の有無・密度を判断するための試掘調査、一部の本発掘調査を実施し、平成10年3月27日にすべての作業を終了した。

平成10・11年度は、それぞれ前年度発掘調査実施箇所 of 整理作業を合わせて行うこととし、平成10年度は7月23日から平成11年3月19日、平成11年度は6月21日から平成12年3月15日まで委託契約を締結し、順次発掘調査および整理作業を実施した。

平成12年度は、7月7日から平成13年3月23日まで委託契約を締結し、整理作業及び報告書作成作業を行った。

2 調査の経過

平成9年度は、11月4日より黒田垣外・ミカド及び増田遺跡の本調査を開始し、翌年1月6日には宮の前遺跡の試掘調査、2月4日から7日には見城垣外遺跡の試掘調査をおこない、2月16日に現地での作業を終了した。なおすべての調査について、重機表土剥ぎ作業・基準点測量作業・空中写真撮影作業を実施した。

平成10年度には、7月30日より8月11日まで垣外及びミカド遺跡の調査、8月26日から9月18日まで見城垣外遺跡、11月16日から12月25日まで黒田垣外・増田遺跡、11月24日から2月12日まで見城垣外遺跡と順次本発掘調査を実施した。また、トンネル部分となる原の城遺跡は3月に試掘調査を実施した。

平成11年度になると、残りの調査区について黒田垣外遺跡が7月6日より、見城垣外遺跡は7月21日から、増田遺跡は12月6日より本調査を行い、また宮の前遺跡は橋北病院等の解体終了後に試掘調査を実施し、現地での作業はすべて終了した。

平成12年度は、図面類の整理・遺物の接合・実測作業・トレース等の整理作業を飯田市考古資料館にて実施すると共に、本報告書の作成にあたった。

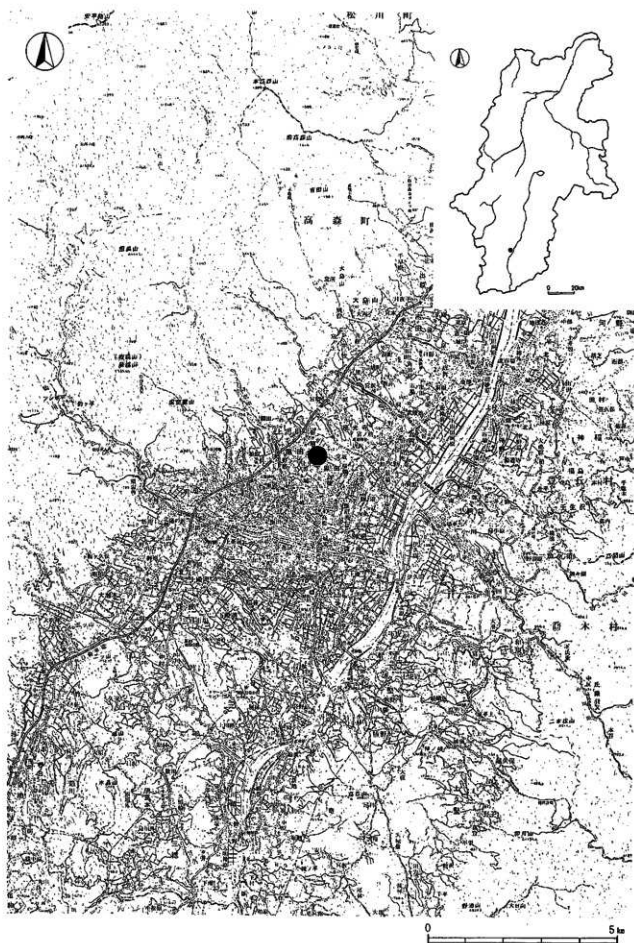
3 調査組織

調査主体者	飯田市教育委員会	教育長	小林恭之助（平成11年12月24日まで）				
	同		冨田 泰啓（平成11年12月25日から）				
調査担当者	福澤 好晃	坂井 勇雄					
調査員	佐々木嘉和	吉川 豊	山下 誠一	馬場 保之	澁谷恵美子	吉川 金利	
	下平 博行	伊藤 尚志					
作業員	新井 幸子	新井ゆり子	池田 幸子	伊坪 節	伊藤 孝人	伊東 裕子	
	井上 恵資	太田 沢男	岡田 直人	岡田 紀子	金井 照子	金子 裕子	
	唐沢古千代	北原 裕	木下 貞子	木下 早苗	木下 義男	木下 力弥	
	木下 玲子	熊谷 義章	熊崎三代吉	小池千津子	小島 康夫	小平 晴美	
	小平不二子	小平まなみ	小林 千枝	小林 理恵	斉藤 徳子	佐々木一平	
	佐々木文茂	佐々木真奈美	佐々木美千枝	佐藤知代子	清水 三郎	代田 和登	
	杉山 春樹	関島真由美	瀬古 郁保	高木 純子	高橋 恭子	竹本 常子	
	橋 千賀子	田中 薫	田中 博人	筒井千恵子	中沢 温子	中田 恵	
	中平けい子	中平 隆雄	中村地香子	仲村 信	中山 敏子	服部 光男	
	林 伸好	林 勢紀子	林 ひとみ	原 昭子	樋本 宣子	平栗 陽子	
	福沢 育子	福沢トシ子	藤田 浩明	古林登志子	牧内 修	牧内喜久子	
	牧内 八代	正木実重子	松下 省三	松下 成司	松下 博子	松島 保	
	松本 恭子	三浦 照於	三浦 厚子	宮内真理子	森藤美知子	森山 律子	
	柳沢 謙二	山田 康夫	吉川 悦子	吉川紀美子			

事務局

飯田市教育委員会

関口 和雄（教育次長 平成11年度まで）	
久保田裕久（同 平成12年度から）	
小畑伊之助（博物館課長 平成11年度まで）	
米山 照実（同 平成12年度から）	小林 正春（博物館課 埋蔵文化財係長）
吉川 豊（同 埋蔵文化財係 平成10年度まで）	
山下 誠一（博物館課 埋蔵文化財係 平成10年度まで）	
馬場 保之（博物館課 埋蔵文化財係）	澁谷恵美子（博物館課 埋蔵文化財係）
吉川 金利（同）	下平 博行（同）
伊藤 尚志（同）	福澤 好晃（同）
坂井 勇雄（同 平成11年度から）	
麦島 博晴（博物館課 庶務係長 平成11年度まで）	
今村 進（同 平成12年度から）	
牧内 功（同 庶務係 平成10年度まで）	
松山登代子（同 平成11年度から）	



挿図1 調査遺跡位置図

第Ⅱ章 遺跡の環境

1 自然環境

黒田垣外・ミカド・増田・見城垣外遺跡の所在する飯田市上郷地区は、長野県の南端を南北に走行する伊那山脈と、中央アルプスの谷間に広がる飯田盆地の中央部に位置する。地区の北西には野底山があり、ここを源として清流野底川と土曾川が南流して飯田松川と天竜川に注いでいる。周囲は東側に天竜川を境として喬木村が、西は野底川を挟んで飯田市街地が、南は松川を境として飯田市松尾が、北は野底山と土曾川によって高森町と飯田市座光寺がそれぞれ隣接する。

『下伊那の地質解説』によれば、伊那谷の段丘は火山灰土の堆積を基準として、高位面・高位段丘・中位段丘・低位段丘Ⅰ・Ⅱの五段階に編年されている。上郷地区の地形の特徴として、地区の中央部を南北に横断する大段丘があり、これを境として俗に上段「うわだん」と呼称される洪積土壌地帯の中位段丘及び低位段丘Ⅰと、下段「しただん」と呼ばれる沖積土壌面の低位段丘Ⅱが見られ、その段丘崖の比高は約50mを測る。前者には黒田地籍が、後者には別府・飯沼地籍がある。中位段丘・低位段丘Ⅱ地帯は天竜川の現河床面海拔398mとの比高差200～80mを測り、野底山山麓から南東方向に緩やかに傾斜する広大な地域を占めており、野底川による新期扇状地が発達し、総体とすれば乾燥した台地をなしている。この中位段丘・低位段丘Ⅱ地帯は三大別でき、南西側に原の城遺跡等がある中位段丘下殿両面、北東側に大明神原遺跡がある中位段丘八幡原面があり、いずれも細長く小高い丘陵地形を呈している。この間の地域が低位段丘Ⅰ伊久間面で2×1kmの広い範囲となる。

黒田垣外・ミカド・増田遺跡は下黒田地区に所在し、先に上げた低位段丘Ⅰ伊久間面の海拔520m～560mに立地する。下黒田地区は前述の原の城と大明神原の台地とそれに挟まれた一帯をいい、うねるように凹地と台地が連続して、台地上には当遺跡をはじめとして良好な遺跡が多く存在している。

見城垣外遺跡は黒田地区に所在し、低位段丘Ⅰ中村面の海拔510m～530mに立地する。ここは原の城遺跡が立地する中位段丘との比高差約30mを測り、野底川によって出来た扇状地として南東方向へ向かって広がり、多くの遺跡が立地している。

2 歴史環境

上郷地区における遺跡調査は、大正13年鳥居龍藏博士が『下伊那の先史及び原始時代図版』を編纂する為に市村成仁氏と郡下一帯を調査したのが本格的な始まりであり、以後多くの人々の調査により地区内に立地する遺跡の状況が明確にされてきた。その中でも昭和57年度には上郷町教育委員会が調査主体者となり、遺跡詳細分布調査を実施し、平成5年度に飯田市と合併した後、平成7年度に飯田市教育委員会による市内遺跡詳細分布調査が行われた。



挿図2 調査位置及び周辺遺跡地図

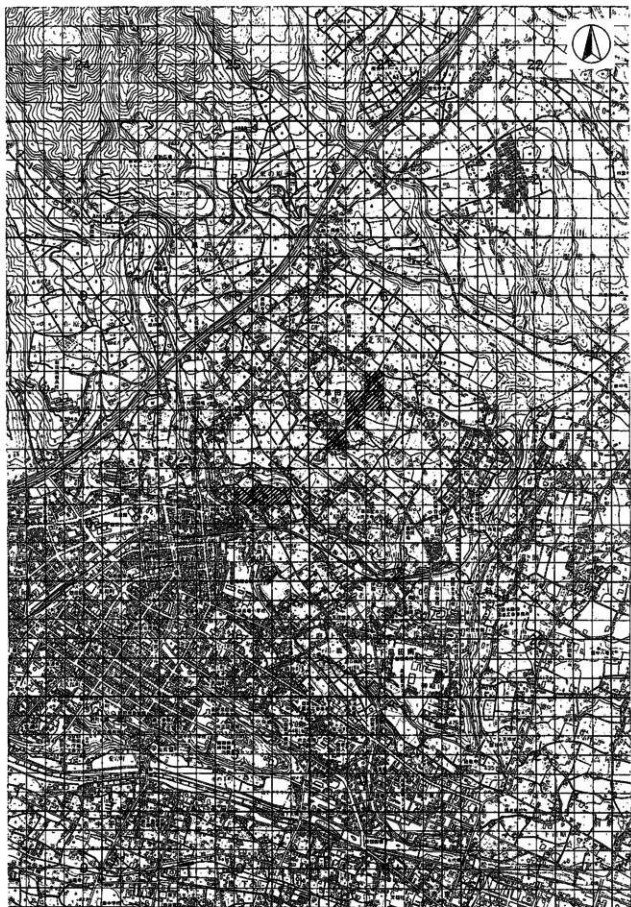
上郷地区の遺跡を概観すると、旧石器時代の遺構・遺物は現在までのところ確認されておらず、当地区最古の文化は上段の姫宮遺跡出土の表裏縄文式土器と、同じく黒田柏原遺跡（柏原A遺跡）出土の石器剥片、宮垣外遺跡出土の尖頭器などにより、縄文時代草創期からその黎明を知る事ができる。縄文時代早期になると、比較的山よりの八王子遺跡など5遺跡から、押型文土器や繊維を含む条痕文及び燃系文土器が出土しており、平成元年度の西浦遺跡の調査では該期の住居址が確認されている。縄文時代前期の遺跡は、姫宮・日影林・大明神原など8遺跡があるが、いずれも上段の中段段丘と低位段丘Ⅰ地帯であり、下段の飯沼・別府地域からの発見がなく、未だ沖積地帯への進出はなかった考えられていたが、昭和62年度に行われた矢崎遺跡の発掘調査で前期後半の住居址が確認され、見直しが必要になった。縄文時代中期になると、低位段丘Ⅱ地帯の南条面下段を除き、地区内一帯に遺物の散布が目立ち、人々の生活の広がりを示しており、黒田大明神原遺跡では数次にわたる調査で中期後葉の大規模な集落が確認されている。縄文時代後期、晩期になると遺跡数は極端に減少しており、特に後期では上段を中心として8遺跡、晩期では3遺跡が認められるのみである。

弥生時代は水稻栽培を経済基盤とする新文化であり、下伊那地方へは美濃・尾張・三河地方から東漸したものと推定される。弥生時代前期の遺物は少なく、中期になると遺跡数が増大する。特に南条面に立地する飯沼棚田遺跡は県下初の弥生時代の水田址が発見されたことで有名である。また、該期の遺跡の大半は下段の飯沼・別府地籍に集中することから、低位段丘Ⅱ地帯にみられた湿地帯を利用しての水稻耕作が類推されている。弥生時代後期になると遺跡数はさらに増加し、集落跡として有名な高松原遺跡をはじめとして山麓地帯から天竜川氾濫原に至る間に数多く立地している。

古墳時代になると、上郷地区にも数多くの古墳を構築した痕跡が確認される。現在のところ燬滅した古墳を含めてこの地区には36基が確認されており、その多くは別府地籍の台地端に立地する。平成9年度に実施した溝口の塚古墳発掘調査では、未盗掘の竪穴式石室が確認されており、伊那谷でも有数の古墳構築地域である。集落は現在までのところ上段には見られず、下段の経済基盤の豊かな地域を中心に展開していたものと考えられる。

奈良・平安時代の遺跡数は多く、ほぼ地区内全域に分布している。中でも昭和62年度の矢崎遺跡発掘調査では大規模な集落址や鍛冶遺構が確認され、重要な遺跡となっている。この低位段丘Ⅱ地帯は古代伊那郡衙址の座光寺地区恒川遺跡群と同一段丘上に立地し、古代条系遺構の存在が地割り・地名から推測される地域であり、古代史研究上注目すべき地域である。

黒田垣外・ミカド・増田遺跡は、上郷町時代の昭和62年度、地域の基盤整備に先立つ発掘調査がされた縄文時代から中世にかけての集落の様子が明らかになった。今回は県道飯島版田線バイパス工事に伴う調査であり、見城垣外遺跡も含めて周辺に広がる集落の様相をさらに明確にした。



挿図3 基準メッシュ図区画調査位置

第三章 調査結果

1 調査区の設定 (挿図3)

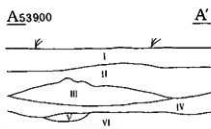
調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図 (以下基準メッシュ図と略す。) に基づいて、株式会社ジャステックに委託した (設定方法については、飯田市教育委員会1998『美女遺跡』他参照)。

今次調査地の区画は、挿図3にて示すとおりである。

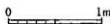
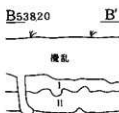
2 遺構と遺物

黒田垣外遺跡

(1) 基本層序

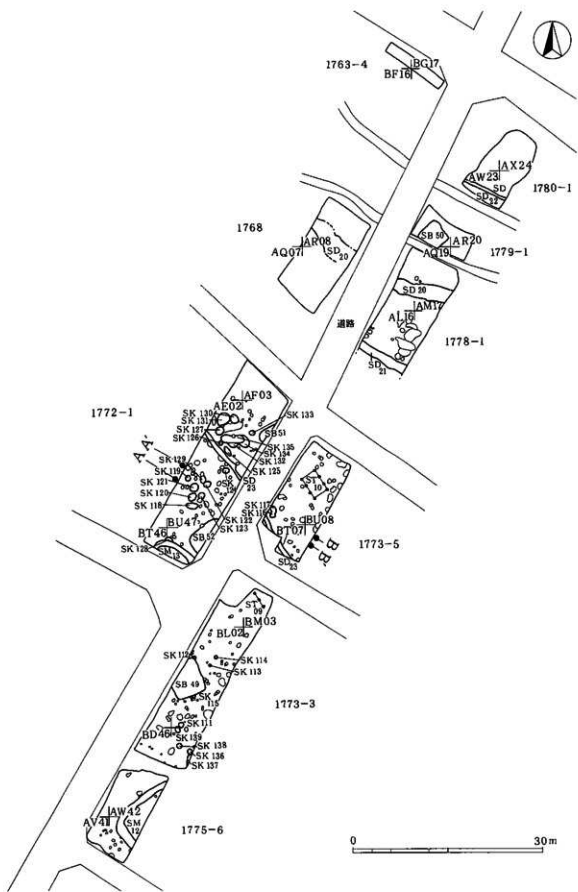


図層名	層	IS標準色番号	土質色	土質	LS	形状	備考
基本層序 A-A'	I	7.5YR4/3	暗褐色土	SL	塊	なし	
	II	7.5YR5/6	暗褐色土	SL	塊	なし	
	III	7.5YR7/3	にがひり暗褐色土	S	塊	なし	層3-5mmの粒
	IV	7.5YR3/2	暗褐色土	S:CL	塊	なし	
	V	7.5YR8/1	灰白色砂	S	なし	なし	層かい砂
	VI	7.5YR3/3	暗褐色土	SL	塊	層	



図層名	層	IS標準色番号	土質色	土質	LS	形状	備考
基本層序 B-B'	I	10YR2/2	黒褐色土	S:CL	塊	層	
	II	10YR3/2	暗褐色土	S:CL	塊	層	

挿図4 KIT 基本層序



挿図5 KIT 全体図 $\frac{1}{300}$

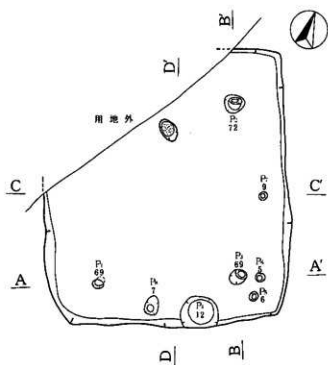
(2) 竪穴住居址

①49号住居址 (挿図6)

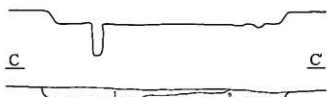
検出位置		BI49	検出地番	1773-3	
切 合	切 る		覆 土	4 層	
	切 られる		床 面	堅 固	
規 模 ・ 形 状	プ ラ ン	隅丸長方形	住 居 内 施 設	主 柱 穴	P1~P3
	規 模 (m)	5.4×5.2		貯 蔵 穴	
	主 軸	N20° W		入 口	
	壁 高 (cm)	35	炉 ・ 竈	形 状	地床炉
	状 態	やや緩やか		規 模 (cm)	48×34
特 記					
出土遺物 (第1図) 壺 甕					
特記事項 遺物はほとんど床面出土で入口部付近に多い。					
時 期		弥生時代後期初頭	根 拠	出土遺物	

②50号住居址 (挿図6)

検出位置		AS18	検出地番	1778-1	
切 合	切 る		覆 土	2 層	
	切 られる		床 面	軟 弱	
規 模 ・ 形 状	プ ラ ン	隅丸方形	住 居 内 施 設	主 柱 穴	P1, P2
	規 模 (m)	3.7×-		貯 蔵 穴	
	主 軸	N55° E		入 口	
	壁 高 (cm)	26	炉 ・ 竈	形 状	埋甕炉
	状 態	やや緩やか		規 模 (cm)	38×37
特 記					
出土遺物 (第2図) 壺 甕					
特記事項 小規模で、出土遺物も少ない。					
時 期		弥生時代後期終末	根 拠	出土遺物	



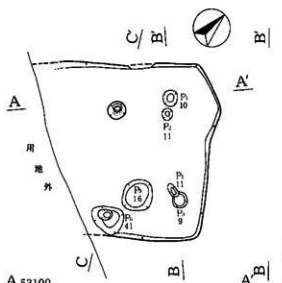
A35750



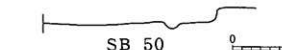
SB 49

穴番号	層	IS地層番号	土質色	土性	L	W	形状	備考
SB49	1	10YR3/4	褐色赤土		30	30	円形	
	2	10YR3/2	褐色赤土		30	30	円形	
	3	10YR3/3	褐色赤土(黄味)		30	30	円形	
P	1	10YR4/4	褐色赤土		30	30	円形	遺物多量に集中
	2	10YR4/4	褐色赤土		30	30	円形	焼土・灰炭

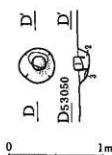
穴番号	層	IS地層番号	土質色	土性	L	W	形状	備考
SB50	1	10YR2/3	褐色赤土		30	30	円形	
	2	10YR4/4	褐色赤土		30	30	円形	
P	1	10YR4/4	褐色赤土		30	30	円形	
	2	10YR2/3	褐色赤土		30	30	円形	焼土・灰炭
	3	10YR2/3	褐色赤土		30	30	円形	



A53100



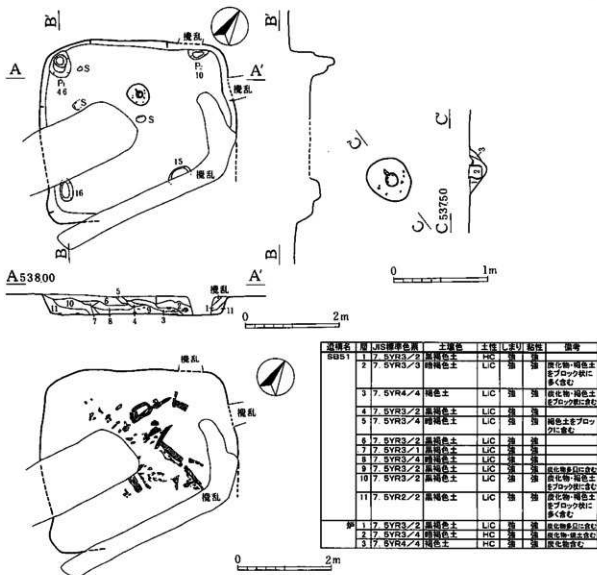
SB 50



挿図6 KIT SB49・50

③51号住居址 (挿図7)

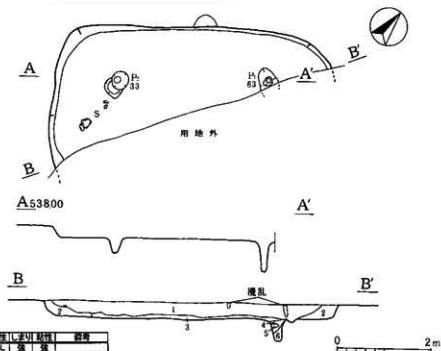
検出位置		ACO4	検出地番	1772-1	
切合	切る		覆土	11層	
	切られる		床面	堅固	
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設	主柱穴	P1.P2.P3
	規模(m)	4.2×3.8		貯蔵穴	
	主軸	N55°E		入口	不明
	壁高(cm)	48	炉・竈	形状	埋燵炉
	状態	ほぼ垂直		規模(cm)	49×41
出土遺物 (第2・5図)					
麩 挟入打製石包丁					
特記事項 焼失家屋(炭化材多量)					
時期	弥生時代後期前半	根拠	出土遺物		



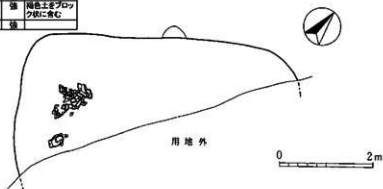
挿図7 KIT SB51

④52号住居址 (挿図8)

検出位置		AT49	検出地番	1772-1	
切合	切る		覆土	3層	
	切られる		床面	堅固	
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設	主柱穴	P1.P2
	規模(m)	5.8×-		貯蔵穴	
	主軸	N35°W	炉・竈	入口	不明
	壁高(cm)	32		形状	不明
	状態	ほぼ垂直		規模(cm)	不明
				特記	
出土遺物 (第3図)					
甕					
特記事項					
遺物は、床面より5cm程上部の埋土中より出土。					
時期	弥生時代後期初頭		根拠	出土遺物	



遺物名	層	図記番号	土質色	土質	形状	数量	備考
SB52	1	7. 5YR2/2	黒褐色土	SiL	塊	塊	
	2	7. 5YR3/3	暗褐色土	SiL	塊	塊	
	3	7. 5YR3/4	暗褐色土	SiL	塊	塊	明瓦土を粘土状に多量含む
P1	4	7. 5YR3/1	黒褐色土	SiL	塊	塊	
	5	7. 5YR4/4	褐色土	SiL	塊	塊	褐色土まじりブロック状に含む
	6	7. 5YR3/4	暗褐色土	SiL	塊	塊	



挿図8 KIT SB52

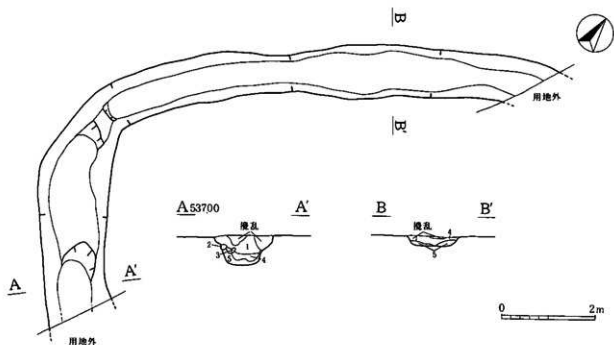
(3) 方形周溝墓

①方形周溝墓12 (挿図9)

検出位置		AW44	検出地番	1775-5			
重複周溝規模・形状	切	る	主	規模(m)	不明		
	主	軸		主	軸		
	切	られる		体	形	態	
	規	模(m)		部	覆	土	
	主	軸	そ	施	設		
	形	態		土	橋		
	覆	土		2	層	墳	丘
	幅	(cm)		143			
	深	(cm)		53			
断	面	形	台	形			
出土遺物 (第4・5図) 甕 高坏 打製石斧			特記事項				
時	期	弥生時代後期後半	根	拠	出土遺物		

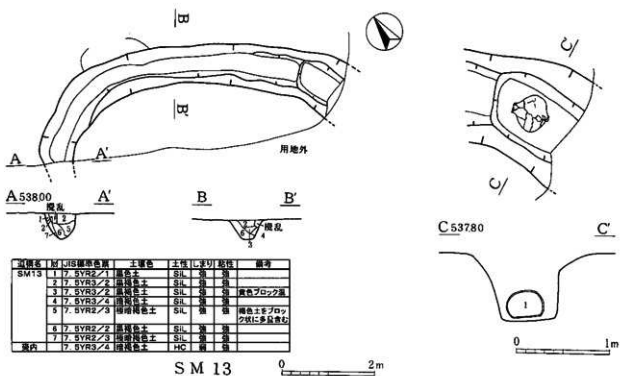
②方形周溝墓13 (挿図9)

検出位置		BS46	検出地番	1772-2			
重複周溝規模・形状	切	る	主	規模(m)	不明		
	主	軸		主	軸		
	切	られる		体	形	態	
	規	模(m)		部	覆	土	
	主	軸	そ	施	設		
	形	態		土	橋		
	覆	土		8	層	墳	丘
	幅	(cm)		100			
	深	(cm)		70			
断	面	形	V	字形			
出土遺物 (第4図) 甕			特記事項 周溝内より横になって甕出土(甕棺か?)				
時	期	弥生時代後期後半	根	拠	出土遺物		



SM 12

遺構名	層	JIS標準色番号	土質色	土性	しまり	粘性	備考
SM12	1	10YR3/3	暗褐色土	HC	弱	強	
	2	7.5YR1/1	褐色土	LIC	弱	強	
	3	5YR3/4	暗褐色土	LIC	弱	強	
	4	5YR2/2	暗褐色土	HC	弱	強	
	5	5YR4/4	褐色土	HC	弱	強	



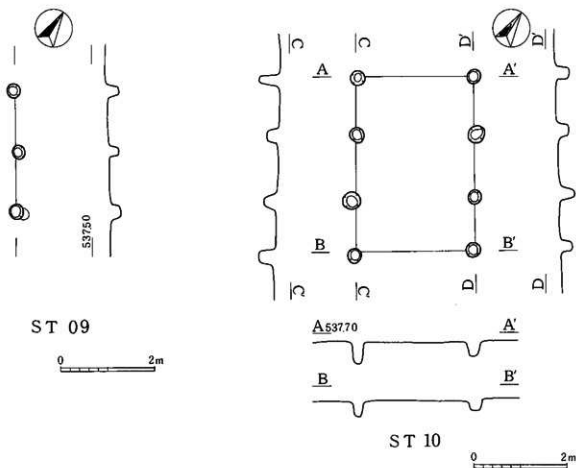
SM 13

遺構名	層	JIS標準色番号	土質色	土性	しまり	粘性	備考
SM13	1	7.5YR2/1	褐色土	SIL	強	強	
	2	5YR3/2	暗褐色土	SIL	強	強	
	3	7.5YR3/2	暗褐色土	SIL	強	強	褐色ブロック状
	4	7.5YR3/4	暗褐色土	SIL	強	強	
	5	7.5YR2/3	暗褐色土	SIL	強	強	褐色土をブロック状に多量含む
溝内	6	7.5YR2/2	暗褐色土	SIL	強	強	
	7	7.5YR2/3	暗褐色土	SIL	強	強	
	7	7.5YR3/4	暗褐色土	HC	弱	強	

挿図9 KIT SM12・13

(4) 建物址

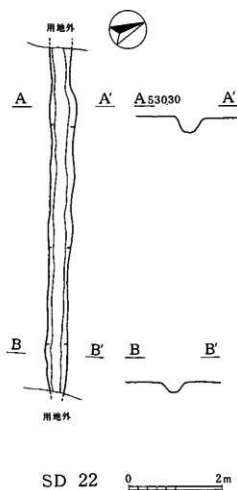
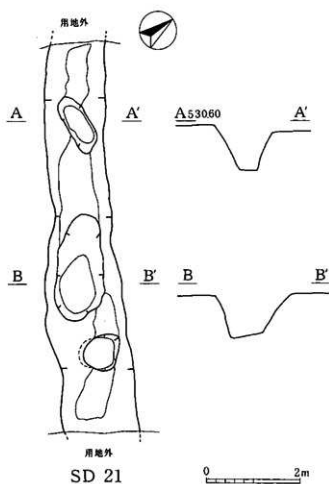
No.	図No.	検出位置	重複桁行方向	規模(梁行×桁)m		柱間(m)	覆土	時代・時期	出土遺物	調査区
				上梁	下桁					
ST09	10	BO03	(2.5)	1.3						1773-3
ST10	10	BX08	3.7×2.5	1.2	2.5					1773-3



挿図10 KIT ST09・10

(5) 溝址

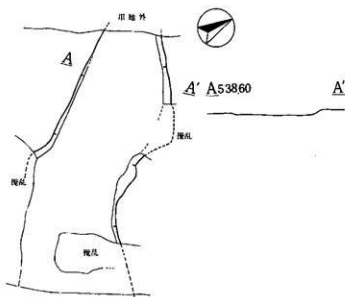
SDNo.	図No.	検出位置	重複	規模(長×大横×大深)m	主轴	覆土	時代・時期	出土遺物	調査区
20	12	AR10		24.5×2.9×0.5	N60°W	2層		陶器片	1778-1 ~1768
21	11	AI14		8.3×1.7×1.6	N60°W	単層		陶器片	1778-1
22	11	AV22		7.2×0.5×0.4	N65°W	単層		土器片	1773-5
23	12	BY02		24.0×0.9×0.2	N35°W	単層		土器片	1772-1



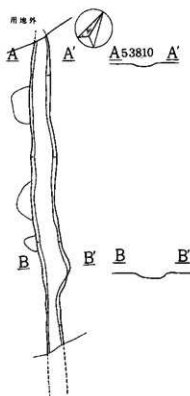
図名	用	SS層の色	土質色	土質	土質	土質	土質	土質	土質
SD21									

図名	用	SS層の色	土質色	土質	土質	土質	土質	土質	土質
SD22									

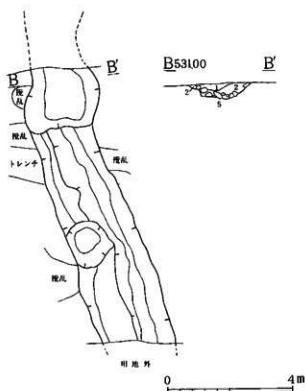
挿図II KIT SD21・22



川跡跡

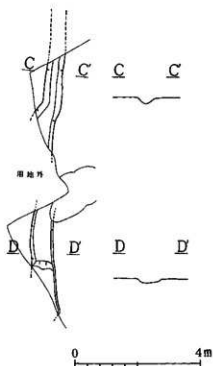


川跡跡



SD 20

遺跡名	町・区	遺跡番号	主構造	主材	土質	形状	備考
SD20	1	110YR2/S	周溝墓	HC	黄	丸	
	2	1砂土		S	灰	丸	



SD 23

遺跡名	町・区	遺跡番号	主構造	主材	土質	形状	備考
SD23	1	110YR3/S	周溝墓	HC	黄	丸	

挿図12 KIT SD20・23

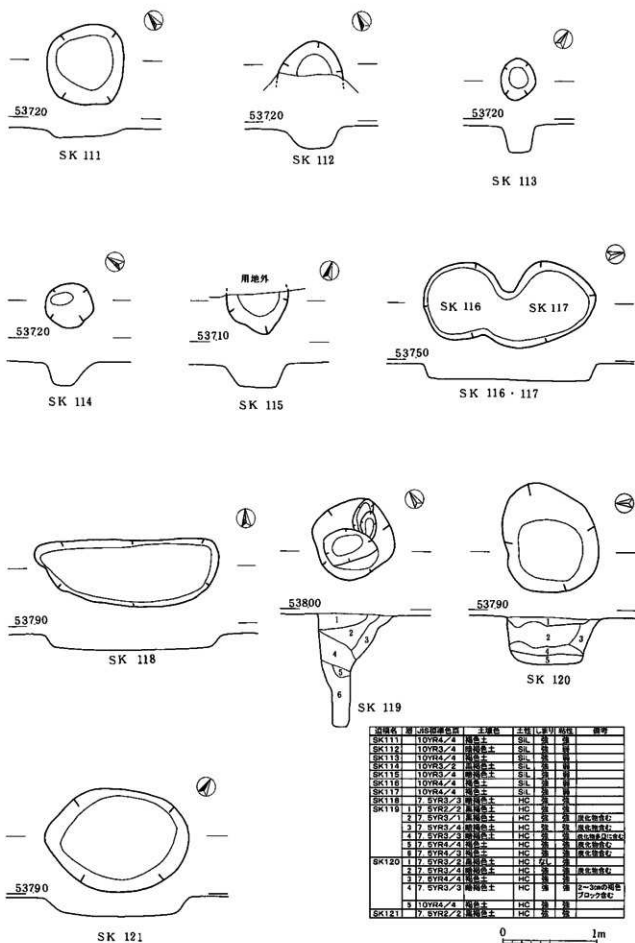
(6) 土坑

SKNo.	図No.	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	調査区
111	13	BE47	84×82×19	円形	単層			1773-3
112	13	BJ49	66×-×24	不明	単層			1773-3
113	13	BI00	42×39×29	円形	単層			1773-3
114	13	BJ00	49×49×30	円形	単層			1773-3
115	13	BG48	62×-×24	不明	単層			1773-3
116	13	BU05	84×78×14	円形	単層			1773-5
117	13	BV05	(122)×80×20	楕円形	単層			1773-5
118	13	BV49	195×70×27	楕円形	単層			1772-1
119	13	BX48	84×78×116	楕円形	6層			1772-1
120	13	BW48	117×108×50	楕円形	5層			1772-1
121	13	BX49	147×112×20	楕円形	単層			1772-1
122	14	BX00	135×95×22	楕円形	単層			1772-1
123	14	BW49	(127)×103×62	楕円形	単層			1772-1
124	14	BY02	113×69×20	楕円形	単層			1772-1
125	14	AA02	189×72×22	楕円形	単層			1772-1
126	14	AB02	72×71×18	円形	単層			1772-1
127	14	AC02	148×124×45	楕円形	単層			1772-1
128	14	BS47	146×-×37	楕円形	単層			1772-1
129	14	BX49	(120)×77×40	楕円形	単層			1772-1
130	14	AD02	152×127×33	円形	単層			1772-1
131	14	AD01	225×164×59	楕円形	2層			1772-1
132	15	AC02	(155)×-×67	不明	単層	縄文時代中期	土器片	1772-1
133	15	AC04	93×65×34	楕円形	単層			1772-1
134	15	AB03	139×-×18	不明	単層		土器片	1772-1
135	15	AB02	365×140×67	不定形	単層			1772-1
136	15	BC48	94×88×16	楕円形	単層	縄文時代中期	土器片	1773-3
137	15	BB48	149×-×15	不明	単層			1773-3
138	15	BC47	92×88×19	円形	単層			1773-3
139	15	BD47	88×59×13	楕円形	単層			1773-3

(7) 遺構外出土遺物

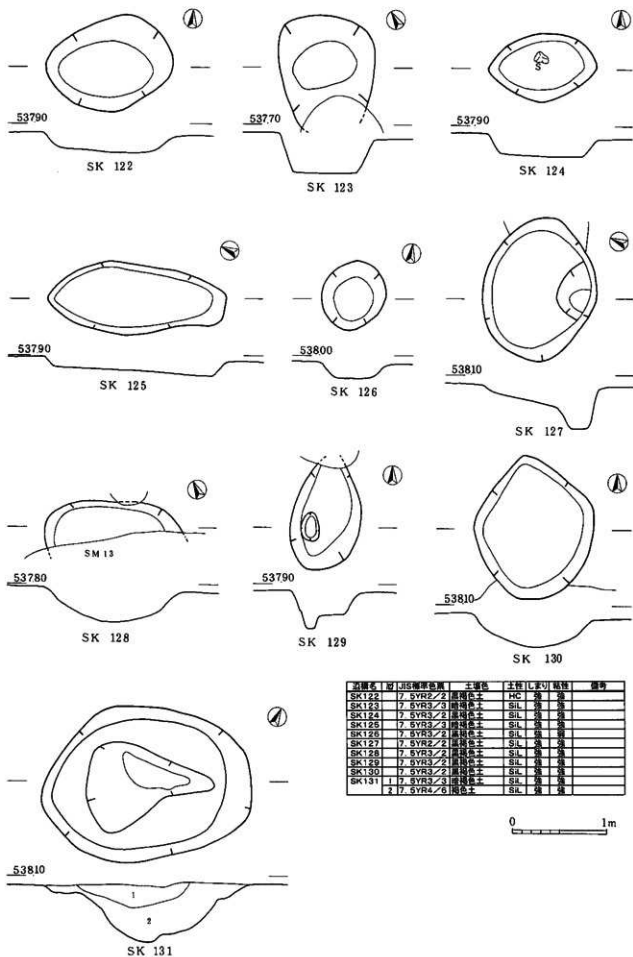
各調査区内で、縄文時代中期および弥生時代後期の土器片が出土するものの、ごく僅かである。

第5図1で示した遺物は、土偶の足部と考えられる。これは、1772-1番地調査区山麓側で、挿図4の基本層序A-A'にて示した第VI層より出土した。

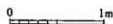
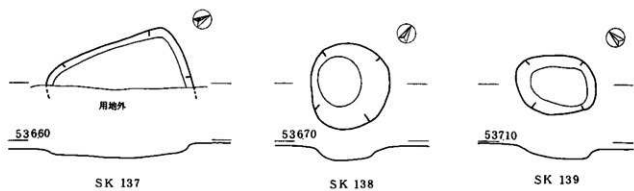
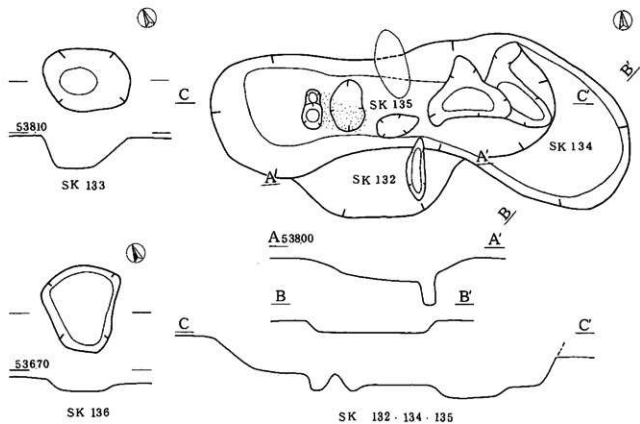


遺構名	層	地層層位	土質	土層	形状	用途	備考
SK111	10YR4/2	焼土	SIL	溝	溝		
SK112	10YR3/4	焼土	SIL	溝	溝		
SK113	10YR4/2	焼土	SIL	溝	溝		
SK114	10YR3/2	焼土	SIL	溝	溝		
SK115	10YR3/4	焼土	SIL	溝	溝		
SK116	10YR4/2	焼土	SIL	溝	溝		
SK117	10YR4/2	焼土	SIL	溝	溝		
SK118	7.5YR3/3	焼土	HC	溝	溝		
SK119	1.7.5YR2/2	焼土	HC	溝	溝		
	2.7.5YR3/1	焼土	HC	溝	溝	炭化物付	
	3.7.5YR3/4	焼土	HC	溝	溝	炭化物付	
	4.7.5YR3/3	焼土	HC	溝	溝	炭化物付	
	3.7.5YR4/4	焼土	HC	溝	溝	炭化物付	
	8.7.5YR4/3	焼土	HC	溝	溝	炭化物付	
SK120	1.7.5YR3/2	焼土	HC	溝	溝		
	2.7.5YR3/4	焼土	HC	溝	溝	炭化物付	
	3.7.5YR3/3	焼土	HC	溝	溝		
	4.7.5YR4/4	焼土	HC	溝	溝		
	3.7.5YR3/3	焼土	HC	溝	溝	1-3mの間に ブロック付	
	3.10YR4/4	焼土	HC	溝	溝		
SK121	1.7.5YR2/2	焼土	HC	溝	溝		

挿図13 KIT SK111~121

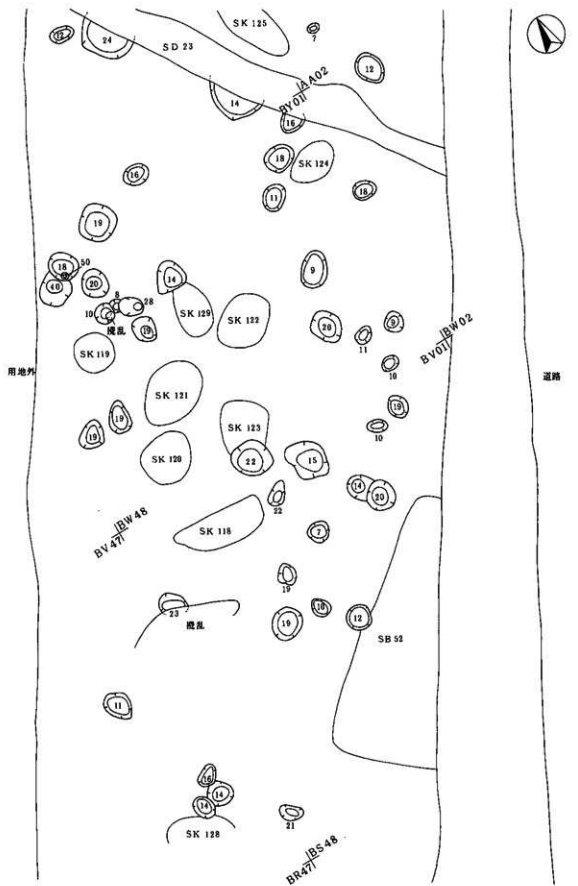


挿図14 KIT SK122~131

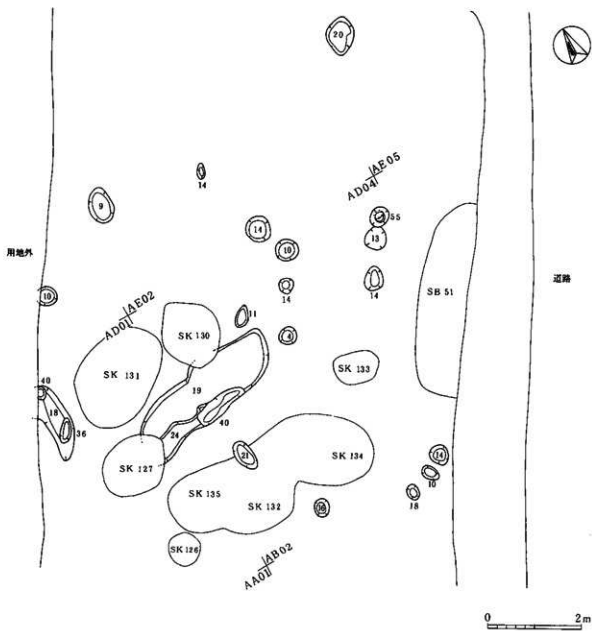


SK番号	用	JIS標準色番	土塗色	土柱	L	引	粘	備考
SK132	7	6YR3/3	焼褐色土	Sil.	強	強		
SK133	7	6YR3/4	焼褐色土	Sil.	強	強		
SK134	7	6YR3/2	焼褐色土	Sil.	強	強		
SK135	7	6YR3/2	焼褐色土	Sil.	強	強		
SK136	10YR4/4	褐色土		Sil.	強	弱		
SK137	10YR4/3	焼い黄褐色土		Sil.	強	強		
SK138	10YR4/3	焼い黄褐色土		Sil.	強	強		
SK139	10YR4/4	褐色土		Sil.	強	強		

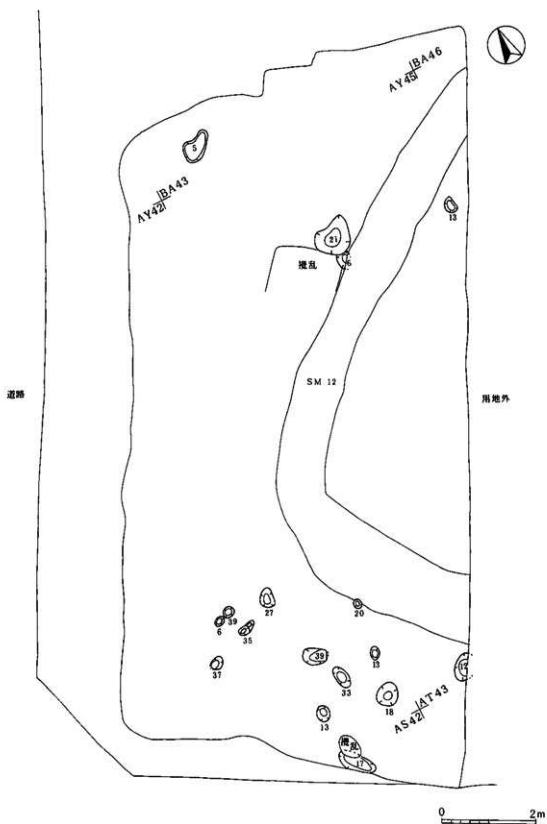
挿図15 KIT SK132~139



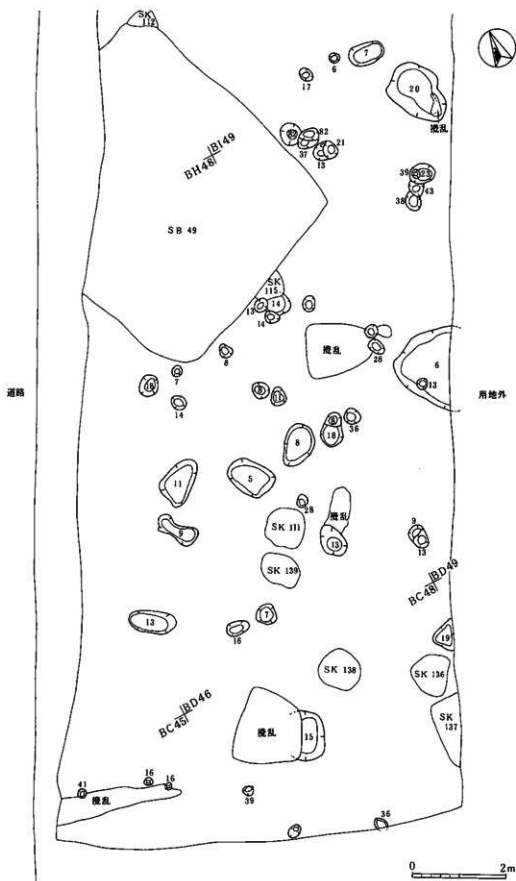
挿図16 KIT 周辺ビット図1



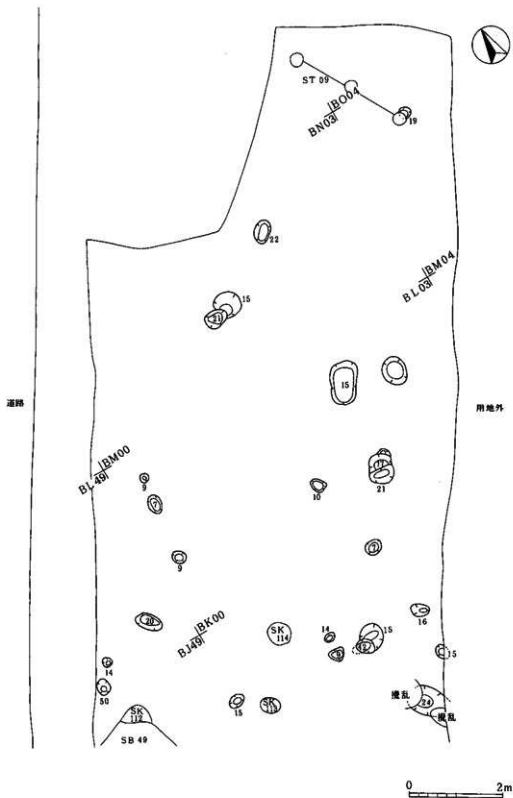
挿図17 KIT 周辺ピット図2



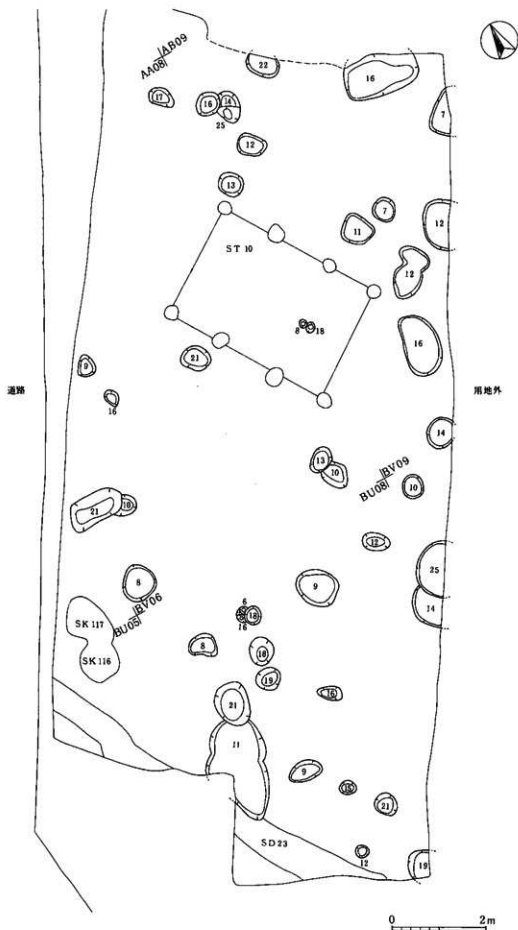
挿図18 KIT 周辺ピット図3



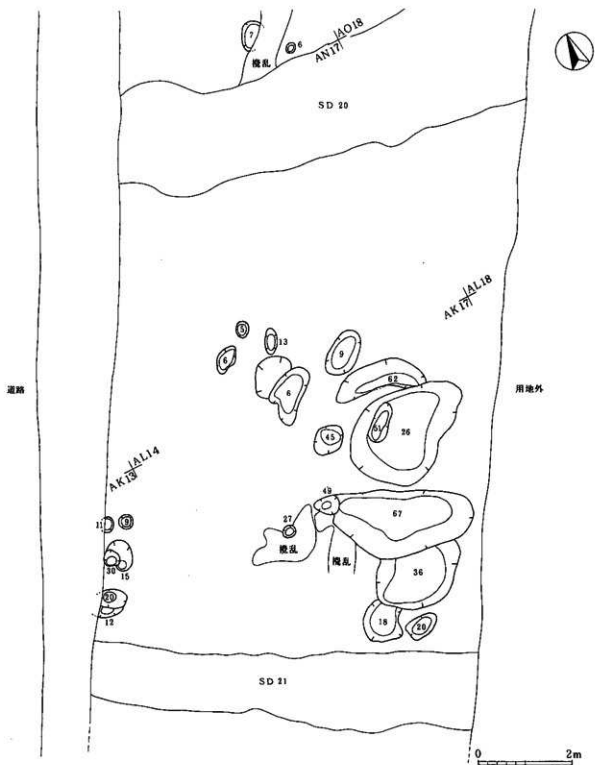
挿図19 KIT 周辺ピット図4



挿図20 KIT 周辺ピット図5



挿図21 KIT 周辺ピット図6



挿図22 KIT 周辺ピット図7

ミカド遺跡

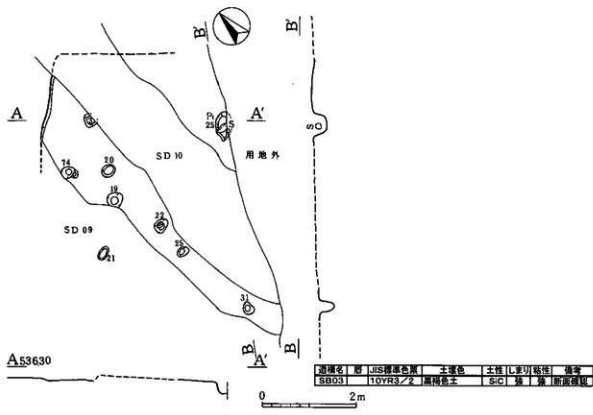
調査地周辺は、垣外遺跡から南向きに緩やかな傾斜となる地点であり、挿図24にて示すとおり、調査区内のほぼ中央部にあたる1523-1番地から1514番地、1522番地から1521-1番地にかけて湿地となった。

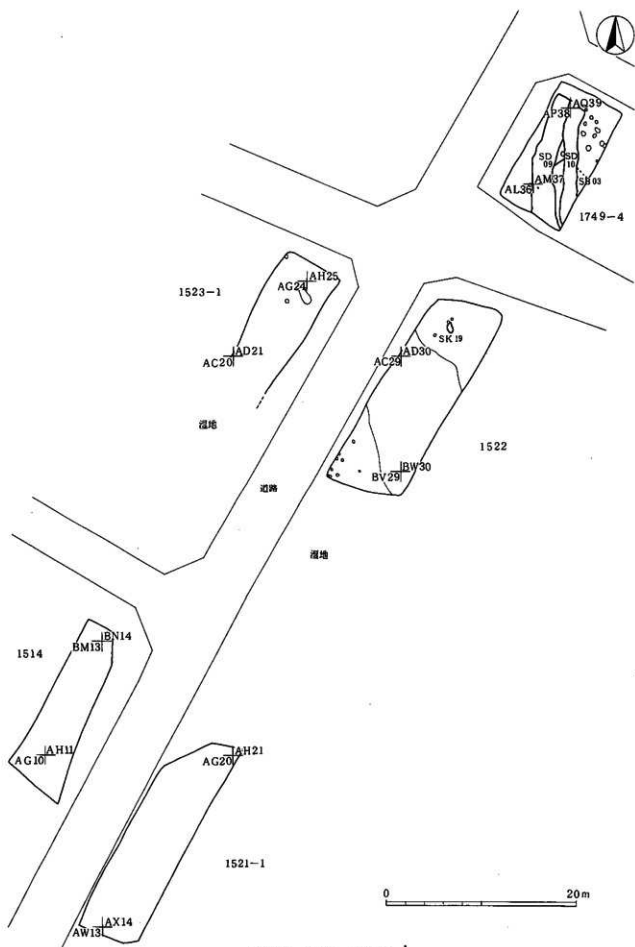
各遺構については次のとおりである。

(1) 竪穴住居址

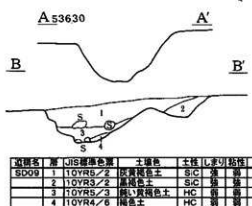
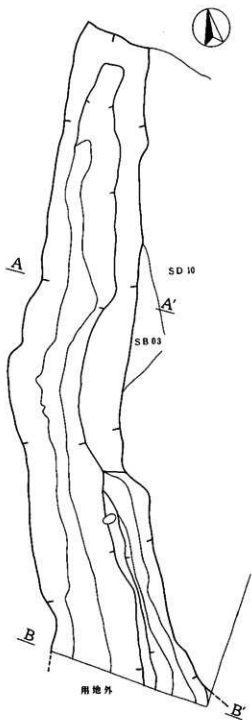
①3号住居址 (挿図23)

検出位置		AM38	検出地番	1749-4
切合	切る		覆土	1層
	切られる	SD09・SD10	床面	堅固
規模・形状	プラン	不明	住居内施設	主柱穴
	規模(m)			貯蔵穴
	主軸			入口
	壁高(cm)	6		炉・竈
状態	ほぼ垂直	規模(cm)		
出土遺物			特記	
なし				
特記事項				
堅い床面のみ検出		壁は削平される		
時期	弥生時代		根拠	床面状態・埋土



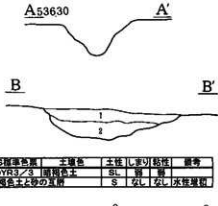
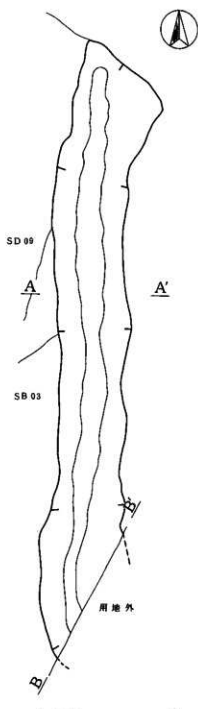
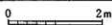


挿図24 MKD 全体図 $\frac{1}{200}$



試掘名	層	JIS標準色票	土層色	土性	しまり	粘性	備考
SD09	1	10YR5/2	灰黄褐色土	S/C	粘	弱	
	2	10YR3/2	灰褐色土	S/C	粘	弱	
	3	10YR3/3	灰褐色土	HC	粘	弱	
	4	10YR4/6	褐色土	HC	粘	弱	

SD 09



試掘名	層	JIS標準色票	土層色	土性	しまり	粘性	備考
SD10	1	10YR3/3	灰褐色土	S/L	粘	弱	
	2	10YR4/6	褐色土	S	なし	なし	灰黄褐色

SD 10



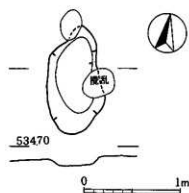
挿図25 MKD SD09・10

(2) 溝址

SDNo.	図No.	検出位置	重複	規模(長×大横×大深)m	主軸	覆土	時代・時期	出土遺物	調査区
9	25	AN38	SD10に 切られる SB03を切	(21.5)×2.1×0.94	N75°W	4層	近世以降	陶器	1749-4
10	25	AN39	SD09・ SB03 を切る	(21.2)×1.9×0.72	N85°W	2層	近世以降		1749-4

(3) 土坑

SKNo.	図No.	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	調査区
19	26	AE32	114×59×16	楕円形	単層			1522

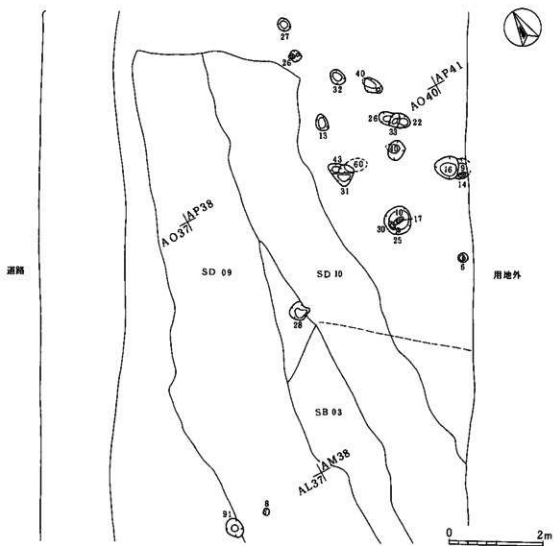
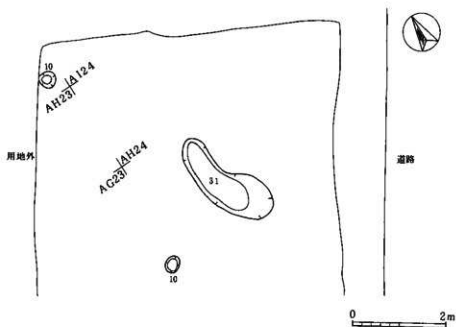


遺構名	図	JIS標準色番	土壌色	土質	しほり	粘性	備考
SK19		10YR3/3	黄褐色土	SiO	強	強	

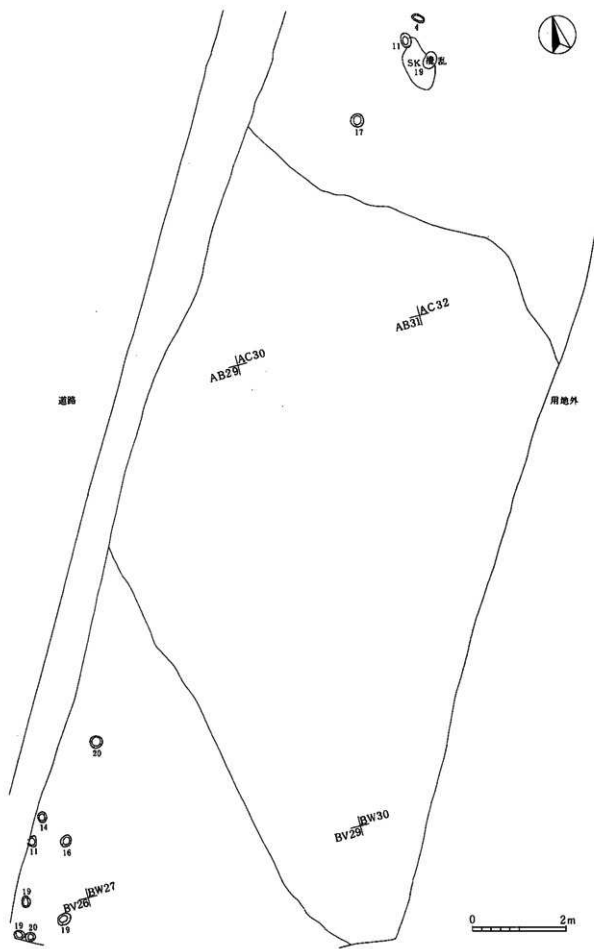
挿図26 MKD SK19

(4) 遺構外出土遺物

近世以降の陶器片が数点出土したのみである。



挿図27 MKD 周辺ビット図1



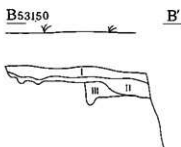
挿図28 MKD 周辺ビット図2

増田遺跡

(1) 基本層序



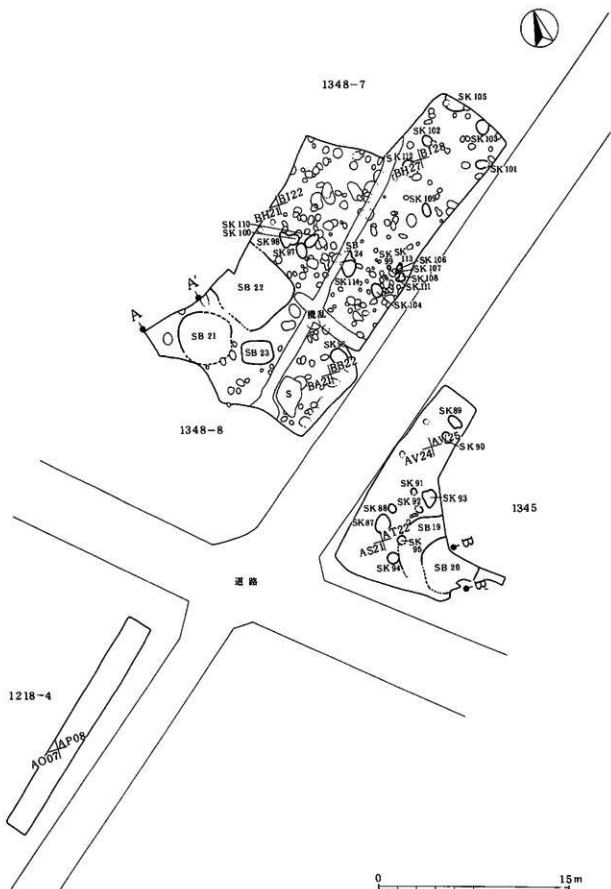
遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性(しまり)	粘性	備考	
基本層序	I	10YR3/3	暗褐色土	SC	強	弱	1346-B
	II	10YR4/3	黄褐色土	SC	強	弱	



遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性(しまり)	粘性	備考	
基本層序	I	10YR4/6	暗褐色土	SC	強	弱	1345
	II	10YR4/3	黄褐色土	SC	強	弱	
	III	10YR3/4	暗褐色土	LC	弱	強	



挿図29 MSD 基本層序



棒图30 MSD 全体图 $\frac{1}{150}$

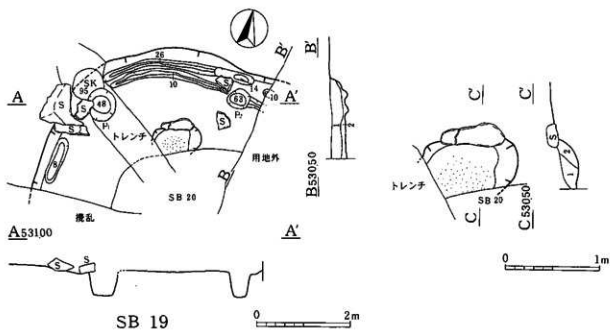
(2) 竪穴住居址

①19号住居址 (挿図31)

検出位置			AS23	検出地番	1345	
覆土				3層		
切 合	切る			床面	堅固	
	切られる	SB20		主柱穴	P1. P2	
規 模 ・ 形 状	プラン	円形	住 居 内 施 設	貯蔵穴		
	規模(m)	不明		入口		
	主軸	N10° W		炉 ・ 竈	形状	地床炉
	壁高(cm)	35			規模(cm)	102×68
	状態	やや緩やか			特記	
出土遺物 (第6図) 深鉢						
特記事項						
時期	縄文時代中期後葉			根拠	出土遺物	

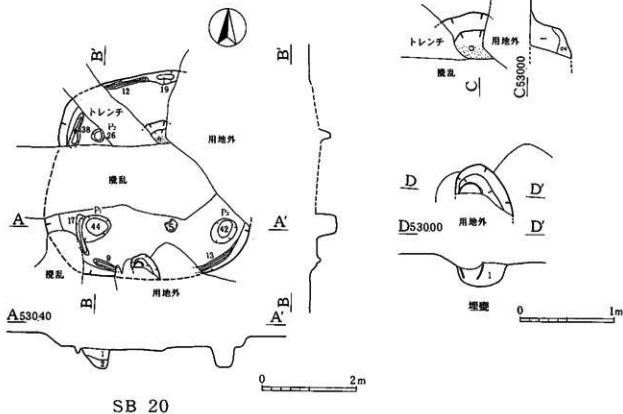
②20号住居址 (挿図31)

検出位置			AR24	検出地番	1345	
覆土				3層		
切 合	切る	SB19		床面	堅固	
	切られる			主柱穴	P1. P2. P3	
規 模 ・ 形 状	プラン		住 居 内 施 設	貯蔵穴		
	規模(m)	(4.8)×不明		入口		
	主軸	N0°		炉 ・ 竈	形状	地床炉
	壁高(cm)	35			規模(cm)	(48)×不明
	状態	やや緩やか			特記	
出土遺物 (第6・7図) 深鉢(埋甕)						
特記事項 入口に埋甕						
時期	縄文時代中期後葉			根拠	出土遺物	



遺構名	層	JIS標準色別	土質色	土性	しまり	粘性	備考
SB19	1	10YR4/6	褐色土	SC	塊	弱	
	2	10YR4/3	深い赤褐色	SC	塊	弱	
	3	10YR3/4	暗褐色土	LIC	塊	弱	
歩	1	10YR3/4	暗褐色土	SIC	強	弱	積土 層厚約
	2	10YR3/4	暗褐色土	SIC	強	弱	層厚約
P1	1	10YR3/4	暗褐色土	LIC	塊	弱	
P2	1	10YR4/4	褐色土	LIC	塊	弱	

遺構名	層	JIS標準色別	土質色	土性	しまり	粘性	備考
SB20	1	10YR4/6	褐色土	SC	塊	弱	
	2	10YR4/3	深い赤褐色土	SC	塊	弱	
	3	10YR3/4	暗褐色土	LIC	塊	弱	
歩	1	10YR3/4	暗褐色土	SIC	強	弱	積土 層厚約
	2	10YR4/6	褐色土	LIC	塊	弱	
P1	1	10YR4/4	褐色土	LIC	塊	弱	
P3	1	10YR3/6	赤褐色土	LIC	塊	弱	
	2	10YR4/2	灰褐色土	LIC	塊	弱	
埋藏	1	10YR4/6	褐色土	LIC	なし	なし	



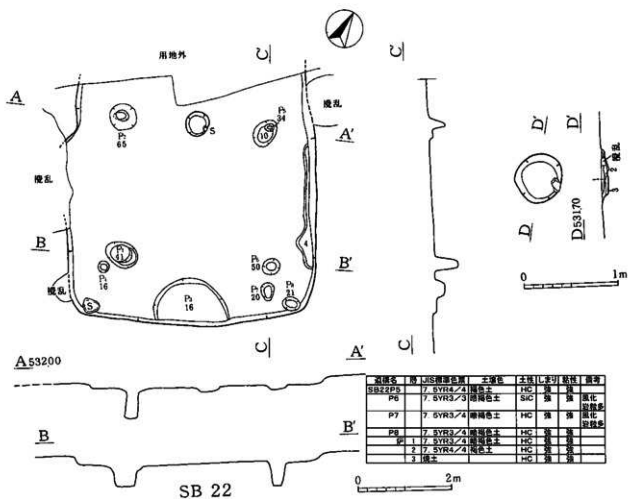
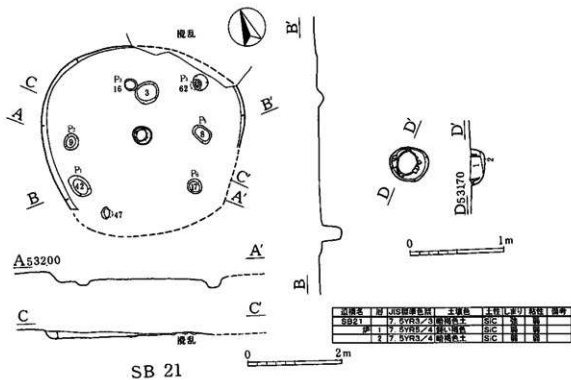
挿図31 MSD SB19・20

③21号住居址 (挿図32)

検出位置			BE17	検出地番	1348-8
切 合	切 る			覆 土	I 層
	切 られる			床 面	軟弱
規 模 ・ 形 状	プ ラ ン	隅丸方形	住 居 内 施 設	主 柱 穴	P1~P6
	規 模(m)	4.2×(3.9)		貯 蔵 穴	
	入 口				
	主 軸	N8°E	炉 ・ 竈	形 状	埋竈炉
	壁 高(cm)	13		規 模(cm)	42×37
状 態	緩やか		特 記		
出土遺物 (第7図) 甕 ミニチュア					
特記事項 主柱穴が明確でない					
時 期	弥生時代後期前半?			根 拠	出土遺物

④22号住居址 (挿図32)

検出位置			BF20	検出地番	1348-7. 1348-8
切 合	切 る			覆 土	3 層
	切 られる			床 面	堅固
規 模 ・ 形 状	プ ラ ン	隅丸方形	住 居 内 施 設	主 柱 穴	P1.P2
	規 模(m)	5.2×5.1		貯 蔵 穴	
	入 口				
	主 軸	N30°W	炉 ・ 竈	形 状	地床炉
	壁 高(cm)	18		規 模(cm)	52×48
状 態	ほぼ垂直		特 記		
出土遺物 (第8・12図) 壺 打製石斧 磨製石斧 磨製石鎌					
特記事項 工事実施の都合により、2度に分けて調査する。					
時 期	弥生時代後期前半			根 拠	出土遺物



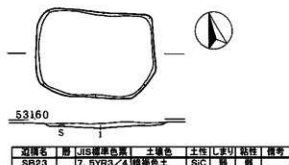
挿図32 MSD SB21・22

⑤23号住居址 (挿図33)

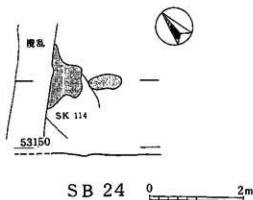
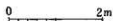
検出位置		BC18	検出地番	1348-8
切 合		切 る 切 られる	覆 土	2 層
規模・ 形状	プラン		住居内 施設	床 面
	規模(m)	2.5×1.8		主 柱 穴
	主 軸			貯 蔵 穴
	壁 高(cm)	16		入 口
	状 態	緩やか		炉・ 竈
出土遺物				
特記事項 住居址でなく竪穴状遺構か				
時 期	不 明		根 拠	出土遺物

⑥24号住居址 (挿図33)

検出位置		BF24	検出地番	1348-7
切 合		切 る 切 られる	覆 土	
規模・ 形状	プラン		住居内 施設	床 面
	規模(m)			主 柱 穴
	主 軸			貯 蔵 穴
	壁 高(cm)			入 口
	状 態			炉・ 竈
出土遺物 なし				
特記事項 貼り床のみ検出				
時 期	不 明		根 拠	



SB 23



挿図33 MSD SB23・24

(3) 土坑

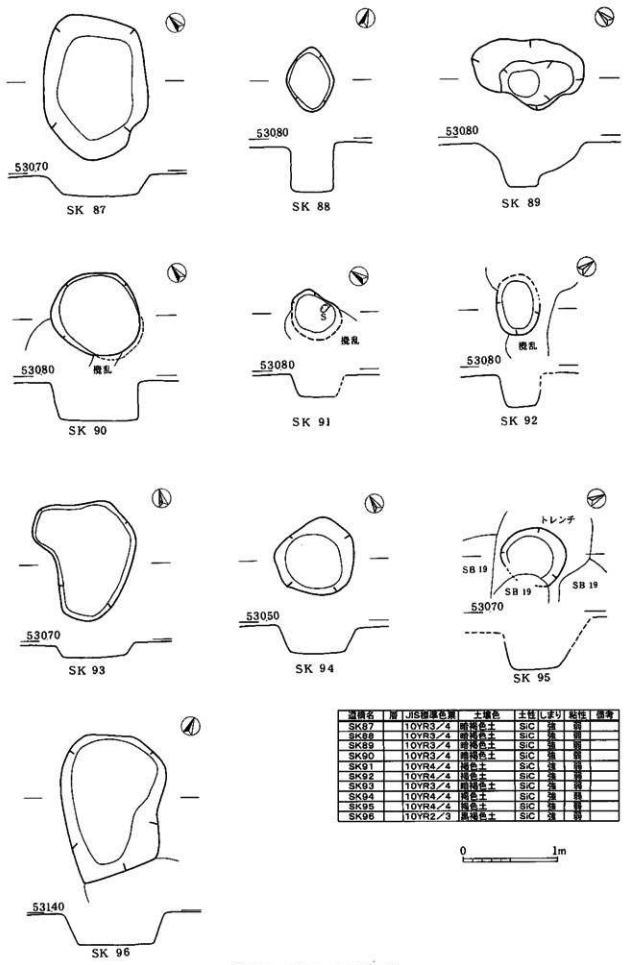
SKNo.	図No.	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	調査区
87	34	AT22	150×113×16	楕円形	単層			1345
88	34	AU22	68×50×50	楕円形	単層			1345
89	34	AW26	120×76×45	楕円形	単層			1345
90	34	AW25	(94)×(83)×41	円形	単層	縄文時代中期後葉	土器片	1345
91	34	AU23	(58)×(50)×34	円形	単層			1345
92	34	AT23	(61)×(48)×32	楕円形	単層			1345
93	34	AU24	132×108×16	不定形	単層	縄文時代中期後葉	土器片	1345
94	34	AS22	87×72×32	円形	単層			1345
95	34	AS22	72×(60)×40	円形	単層	縄文時代中期後葉	土器片	1345
96	34	BB22	154×113×44	楕円形	単層			1348-8
97	35	BG22	125×56×21	楕円形	単層	縄文時代後期後葉	深鉢	1348-7
98	35	BG21	132×83×43	楕円形	単層		土器片	1348-7
99	35	BE25	31×26×21	円形	2層	縄文時代中期後葉	深鉢	1348-7
100	35	BG22	71×(不明)×46	不明	単層		土器片	1348-7
101	35	BH30	(84)×50×14	楕円形	単層			1348-7
102	35	BI28	(98)×64×14	楕円形	単層			1348-7
103	35	BI30	108×105×57	楕円形	単層	縄文時代中期	土器片	1348-7
104	35	BE25	98×(88)×20	不定形	単層		土器片	1348-7
105	35	BJ29	(不明)×(不明)×28	不明	単層			1348-7
106	35	BE25	(不明)×38×14	不明	単層		土器片	1348-7
107	35	BE25	32×23×40	円形	単層		土器片	1348-7
108	36	BG22	143×67×20	楕円形	単層	縄文時代前期	土器片	1348-7
109	36	BG27	96×59×21	楕円形	単層			1348-7
110	36	BG23	133×68×42	楕円形	単層			1348-7
111	36	BD25	不明×29×40	楕円形	単層	縄文時代前期	土器片	1348-7
112	36	BI27	不明×58×27	不明	単層		土器片	1348-7
113	36	BE26	48×31×11	不定形	2層		深鉢	1348-7
114	36	BE23	114×(99)×30	楕円形	2層	縄文時代中期後葉	深鉢	1348-7

(4) 遺跡外出土遺物

出土遺物の多くは唐草土器で、縄文時代中期後葉に比定され、確認されている住居址とほぼ同時期であり、各調査区内で多数出土する。また1348-7番地では、第11図 20・21にて示すように結節縄文土器が数点出土しており、さらには第10図 9のようなSK97と同時期の縄文時代後期後葉の土器も数点出土した。

石器の出土はすべて1348-8番地で、打製石斧・磨製石斧・石錘・石鏃がある。その中でも石錘の出土が目立つが、飯田市内においても大門原遺跡をはじめとして多量に出土する遺跡が幾つも存在しており、当地域の縄文時代の石器組成を考える上で今後検討を要する遺物の一つである。

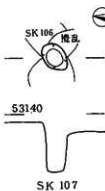
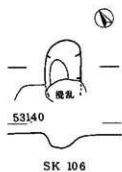
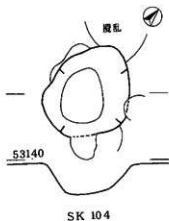
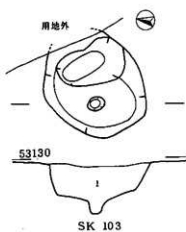
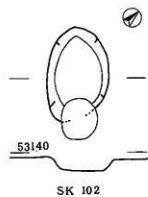
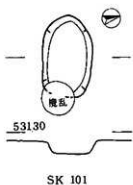
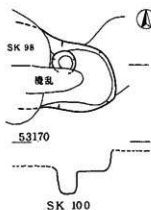
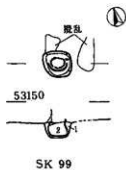
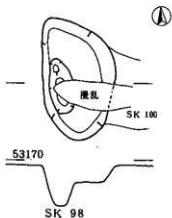
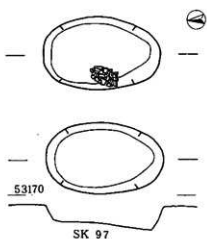
弥生時代の遺物は、第11図 28～30にて示したSB22と同時期の座光寺原式土器が出土し、この住居址内で出土した土器と同一個体の可能性が高い。



遺構名	層	JIS層番号	土壌色	土質	しまり	粘性	備考
SK87	10YR3/4	黄褐色土	SiC	強	弱		
SK88	10YR3/4	黄褐色土	SiC	強	弱		
SK89	10YR3/4	黄褐色土	SiC	強	弱		
SK90	10YR3/4	黄褐色土	SiC	強	弱		
SK91	10YR4/4	褐色土	SiC	強	弱		
SK92	10YR4/4	褐色土	SiC	強	弱		
SK93	10YR3/4	黄褐色土	SiC	強	弱		
SK94	10YR4/4	褐色土	SiC	強	弱		
SK95	10YR4/4	褐色土	SiC	強	弱		
SK96	10YR2/3	黒褐色土	SiC	強	弱		



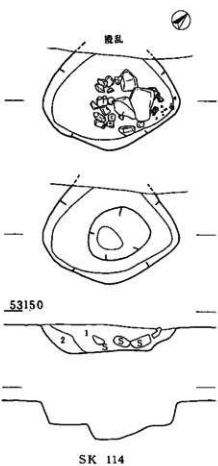
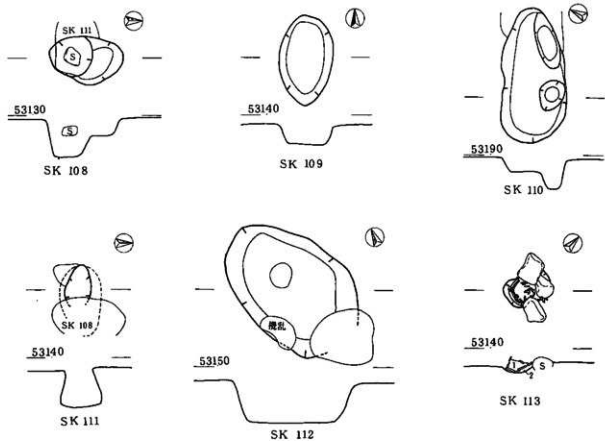
挿図34 MSD SK87~96



図様名	原	JIS標準色番	土壁色	土柱	土葺	漆	襖	欄干	欄
SK97		10YR3/3	濃褐色土	HC	焼	焼			
SK98		7.5YR4/4	褐色土	HC	焼	焼			
SK99	1	7.5YR4/6	褐色土	SiC	焼	焼			
	2	7.5YR3/3	濃褐色土	SiC	焼	焼			
SK100		7.5YR3/4	濃褐色土	HC	焼	焼			
SK101		7.5YR3/3	濃褐色土	SiC	焼	焼			
SK102		7.5YR2/3	深褐色土	SiC	焼	焼			
SK103		10YR3/4	濃褐色土	SiC	焼	焼			
SK104		7.5YR3/3	濃褐色土	SiC	焼	焼			
SK105		7.5YR3/4	濃褐色土	SiC	焼	焼			
SK106		7.5YR3/4	濃褐色土	SiC	焼	焼			
SK107		7.5YR4/4	褐色土	Si	焼	焼			

0 1m

挿図35 MSD SK97~107



遺構名	層	JIS標準色別	土種名	土性	し	ま	切	黏	性	備考
SK108	7	5YR2/2	黒褐色土	SiC	強					
SK109	7	5YR3/4	暗褐色土	SiC	強					
SK110	7	5YR3/3	暗褐色土	HC	強					
SK111	7	5YR3/4	暗褐色土	SiC	強					
SK112	7	5YR3/2	黒褐色土	SiC	強					
SK113	1	7. 5YR3/4	暗褐色土	SiC	強					
	2	7. 5YR4/4	褐色土	SiC	強					
SK114	1	7. 5YR4/4	褐色土	SiC	強					
	2	7. 5YR4/6	褐色土	SiC	強					

0 1m

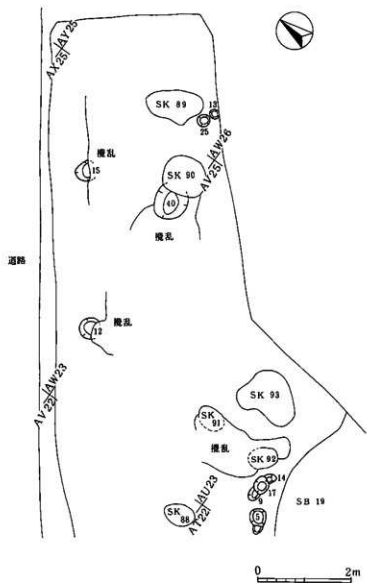
挿図36 MSD SK108~114



挿図37 MSD 周辺ピット図1



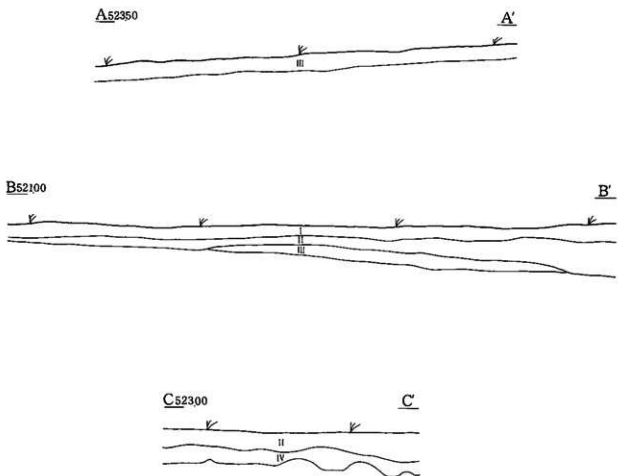
挿図38 MSD 周辺ピット図2



挿図39 MSD 周辺ピット図3

見城垣外遺跡

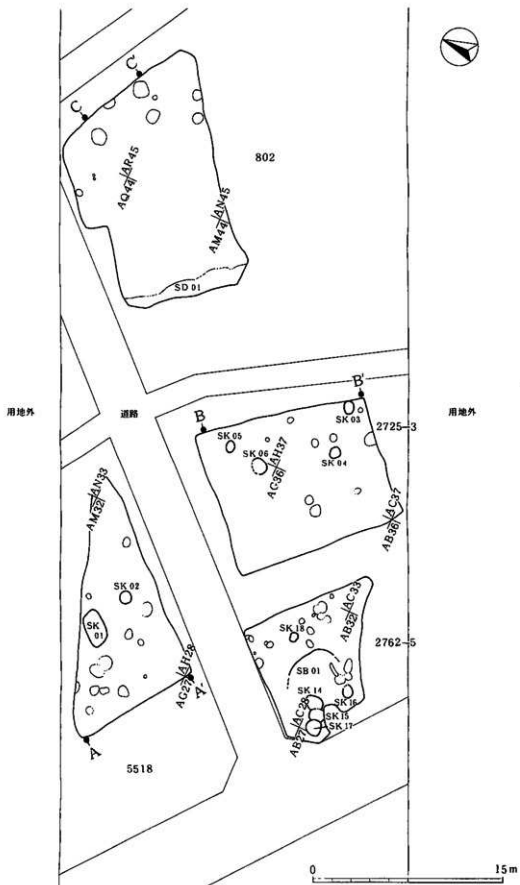
(1) 基本層序



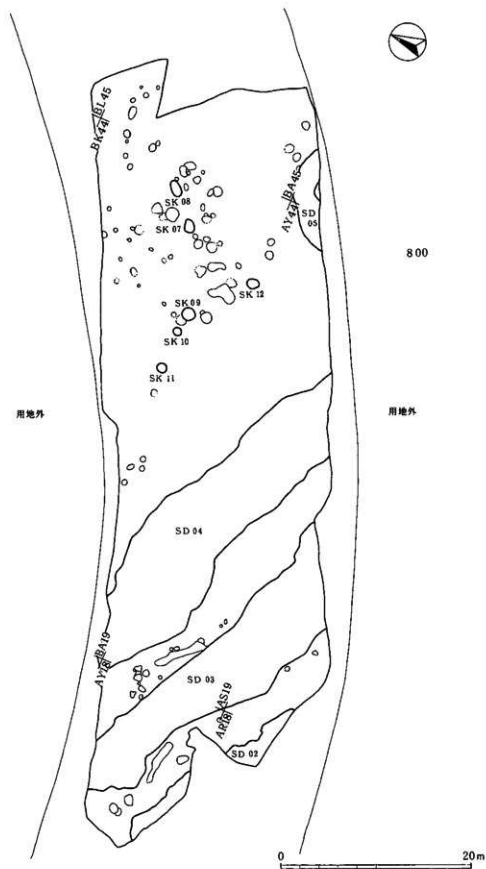
層名	層	JIS標準色紙	土質色	土性	L.率(%)	粘性	備考
基本層序	I	黄褐色					
	II	黄褐色					
	III	黄褐色					
	IV	7.5YR3/3	黄褐色土	S:CL	粗	粘	

0 2m

挿図40 KNJ 基本層序



挿図41 KNJ 全体図 (1) $\frac{1}{150}$

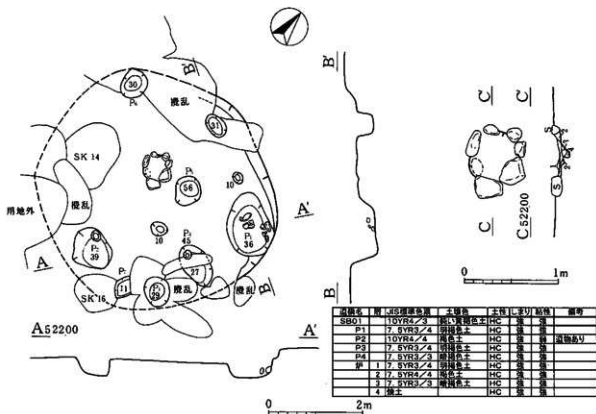


挿図42 KNJ 全体図 (2) $\frac{1}{200}$

(2) 竪穴住居址

①1号住居址 (挿図43)

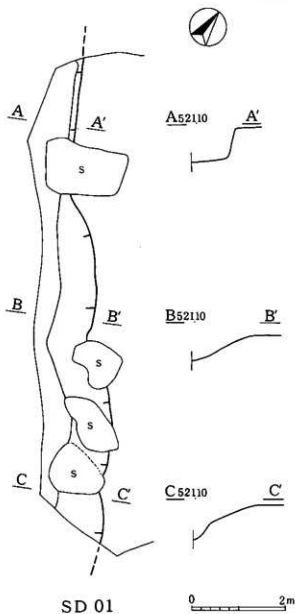
検出位置		AC30	検出地番	2762-5	
切 合	切る	SK16	覆土	4層	
	切られる	SK14	床面	一部堅固	
規 模 ・ 形 状	プラン	円形	住居内施設	主柱穴	P1~P5
	規模(m)	(4.8)×(4.7)		貯蔵穴	
	主軸	N45°W		入口	
	壁高(cm)	34	炉・竈	形状	石囲炉
状態	ほぼ垂直	規模(cm)		76×64	
特記					
出土遺物 (第13図) 深鉢 土偶 打製石斧					
特記事項 既存建物の造成により2/3は削平 ピット内より板状土偶が出土					
時 期	縄文時代中期中葉	根 拠	出土遺物、遺構形態		



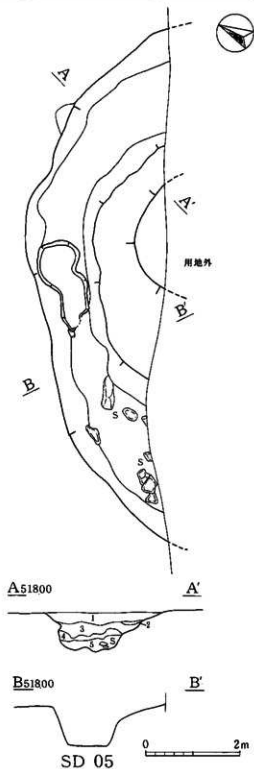
挿図43 KNJ SB01

(3) 溝址

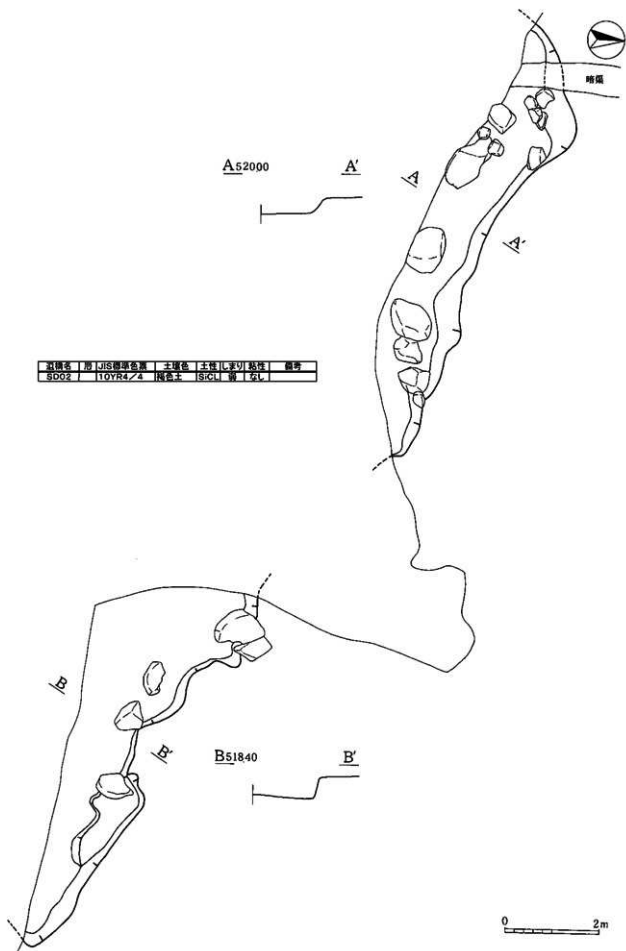
SDNo.	図No.	検出位置	重複	規模(長×大横×大深)m	主軸	層土	時代・時期	出土遺物	調査区
1	44	AN42		11.5×(1.4)×0.83	N40°W	単層			802-2
2	45	AR10 AP17		(22.8)×(3.2)×0.4	N65°W	単層			800
3	46	AS21		34.6×11.0×1.9	N45°W	8層		土器片, 土師片	800
4	47	AY28		40×9.4×1.6	N55°W	8層		赤褐色状雲石	800
5	44	AY45		10.7×3.0×1.3	N40°W	8層		雲石(赤褐色)	800



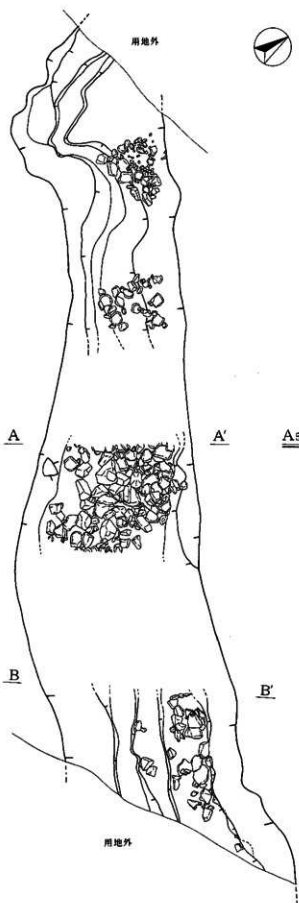
図例名	層	JIS原色番号	土質色	土性	孔	入り	粘性	備考
SD01		10YR4/1	褐色土	SL	弱	粘		
SD05	1	5YR3/3	暗褐色土	SL	強	粘		
	2	5YR4/4	褐色土	SL	強	粘		
	3	5YR2/2	黄褐色土	SL	強	粘		
	4	5YR5/8	明褐色土	SL	強	粘		
	5	砂礫層	S	粒	粒			



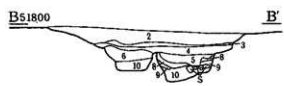
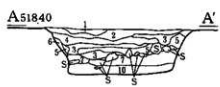
挿図44 KNJ SD01・05



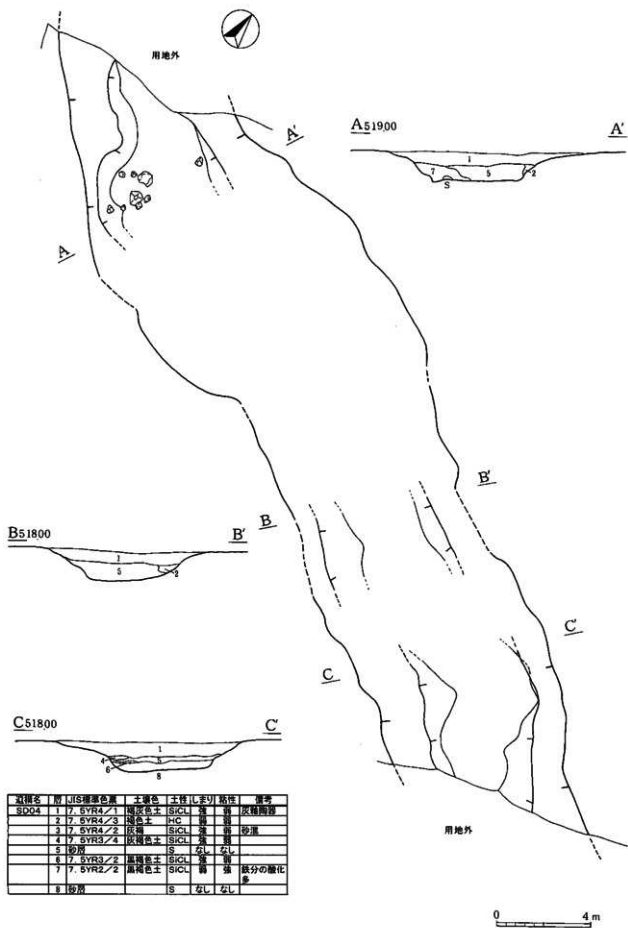
挿図45 KNJ SD02



洞窟名	層	JIS標準色番号	土質色	土性(土質)	粘性	備考	
SD03	1	10YR4/4	褐色土	S/CL	弱	なし	
	2	10YR3/1	黒褐色土	S/CL	弱	なし	
	3	砂層		S	なし	なし	
	4	10YR4/1	褐色土	SL	弱	なし	
	5	10YR4/3	鈍い黄褐色土	SL	弱	なし	
	5'	黄褐色土と砂の混層		S	弱	なし	水質硬結
	6	10YR2/1	黒色土	S/CL	弱	なし	水質硬結
	6'	黒色土と砂の混層		S	弱	なし	水質硬結
	7	10YR4/6	褐色土	S/L	なし	なし	
	8	10YR3/2	黒褐色土	S/L	弱	弱	泥物あり
9	10YR4/4	褐色土	S/L	弱	弱		
10	砂層		S	なし	なし		



挿図46 KNJ SD03



挿図47 KNJ SD04

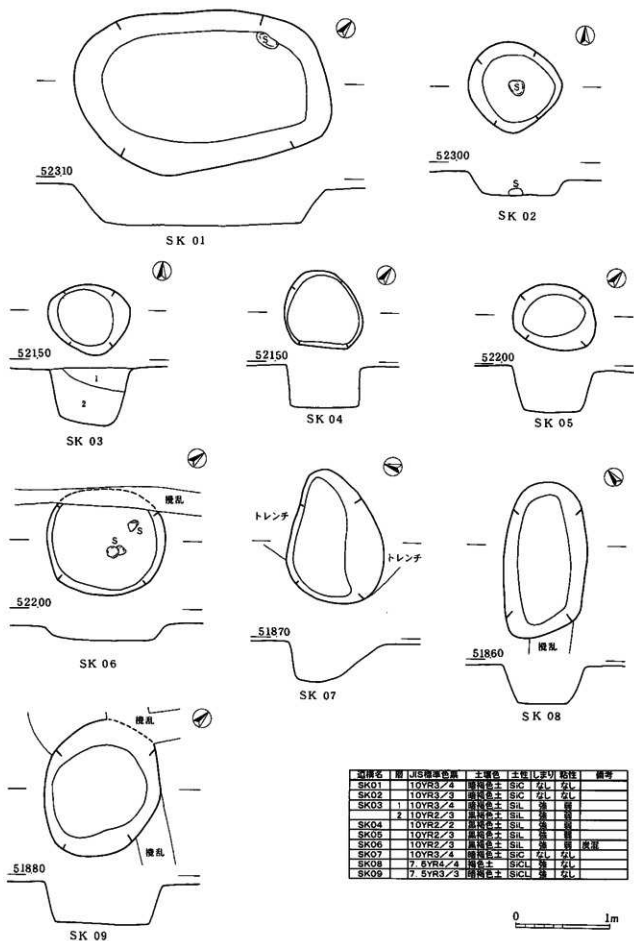
(4) 土坑

SKNo.	図No.	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	調査区
1	48	AK28	271×164×42	楕円形	単層			5518
2	48	AK29	102×94×23	不整楕円	単層			5518
3	48	AF40	86×73×68	不整楕円	2層	縄文時代中期初頭	土器片	2725-3
4	48	AF38	82×79×27	不整楕円	単層	縄文時代中期初頭	土器片	2725-3
5	48	AJ37	87×69×47	楕円形	単層	縄文時代前期末	土器片	2725-3
6	48	AH36	126×(111)×21	隅丸方形	単層		磨製石斧	2725-3
7	48	BE41	140×100×43	不定形	単層			800
8	48	BG42	166×87×42	不整楕円	単層			800
9	48	BC37	137×122×43	円形	単層	縄文時代中期中葉		800
10	49	BC36	86×83×13	円形	単層			800
11	49	BD34	100×89×12	円形	単層			800
12	49	BA40	120×107×75	不整楕円	単層	平安時代		800
14	49	AB29	(不明)×111×35	不定形	単層		打製石斧	2762-5
15	49	AB28	(124)×(112)×28	円形	単層			2762-5
16	49	AA30	(82)×(73)×55	楕円形	2層	縄文時代中期初頭	打製石斧	2762-5
17	49	AB28	120×110×60	円形	単層			2762-5
18	49	AD31	40×38×20	楕円形	単層	縄文時代早期後葉	深鉢片	2762-5

(5) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物のほとんどは、2762-5番地と2725-3番地にて出土したもので、特に第15図13~19はSK03・04・16にて出土した遺物と同じ五領ヶ台式土器である。また耕作による攪乱の埋土中より耳飾り状の土製品が出土する(第15図12)。

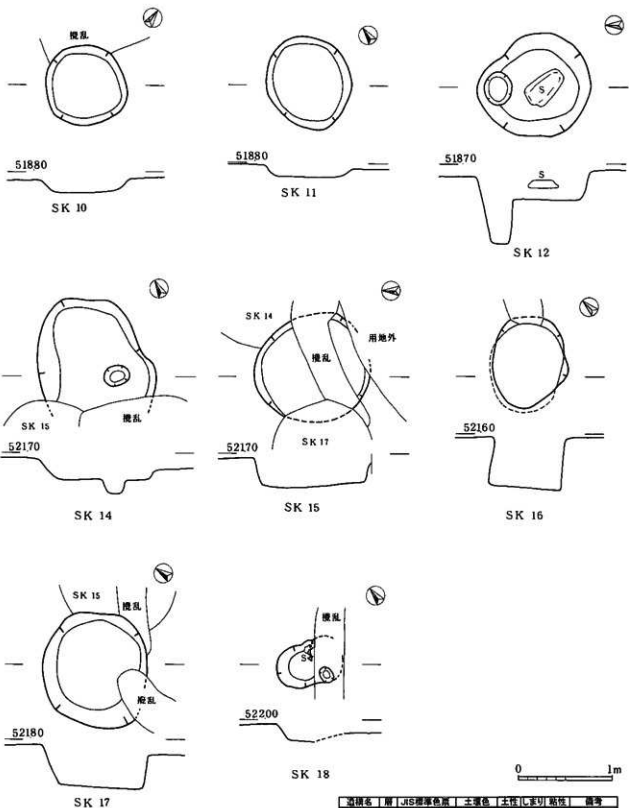
石器は、2762-5番地にて打製石斧、800番地では石鏟が出土しているが、全体的には少量である。



遺構名	層	LIS層番号	土質色	土粒	土質	形状	粘性	備考
SK01	10YR3/4	機織色土	SiC	なし	なし			
SK02	10YR3/3	機織色土	SiC	なし	なし			
SK03	1 10YR3/4	機織色土	SiL	なし	なし			
	2 10YR2/3	機織色土	SiL	なし	なし			
SK04	10YR2/2	機織色土	SiL	なし	なし			
SK05	10YR2/3	機織色土	SiL	なし	なし			
SK06	10YR2/3	機織色土	SiL	なし	なし			機織
SK07	10YR3/4	機織色土	SiC	なし	なし			
SK08	7 5YR4/4	褐色土	SiCL	なし	なし			
SK09	7 5YR3/3	機織色土	SiCL	なし	なし			

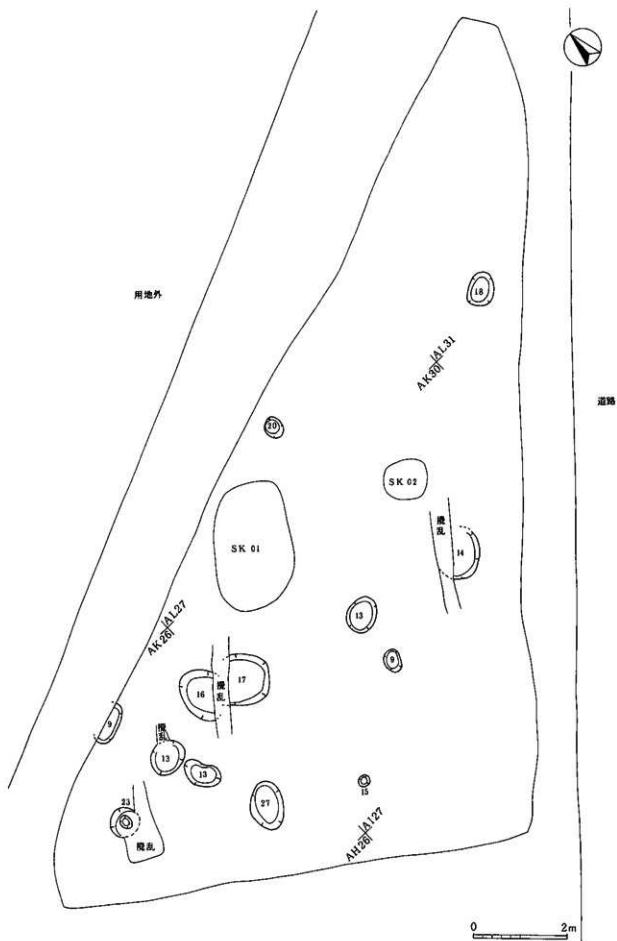
0 1m

挿図48 KNJ SK01~09

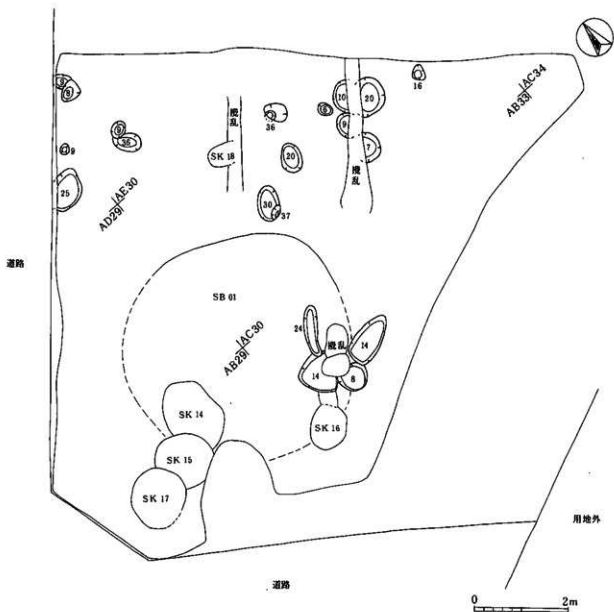


遺構名	層	JIS埋蔵物層	土質色	土質	土質	土質	形状	備考
SK10	7	5YR3/2	褐色土	SI	CL	強	左L	
SK11	7	5YR2/2	褐色土	SI	CL	強	左L	
SK12	10YR4/3		灰褐色土	SI	CL	強	左L	
SK14	10YR4/4		褐色土	HC	強	強		
SK15	7	5YR4/4	褐色土	CL	強	強		
SK16	1	5YR3/2	褐色土	HC	強	強		
	2	5YR4/4	褐色土	HC	強	強		
SK17	7	5YR4/4	褐色土	HC	強	強		
SK18	7	5YR4/4	褐色土	HC	強	強		

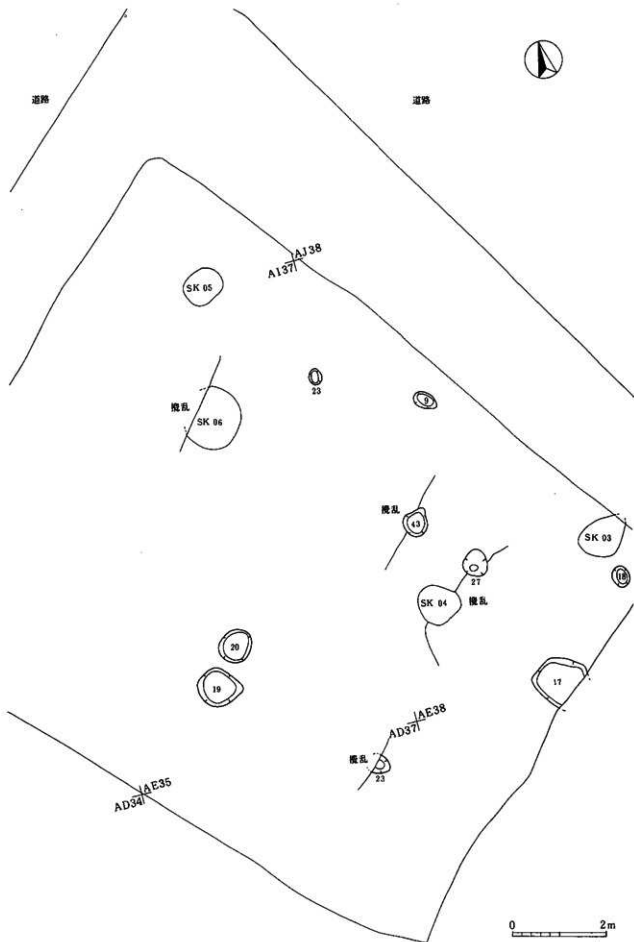
挿図49 KNJ SK10~12・14~18



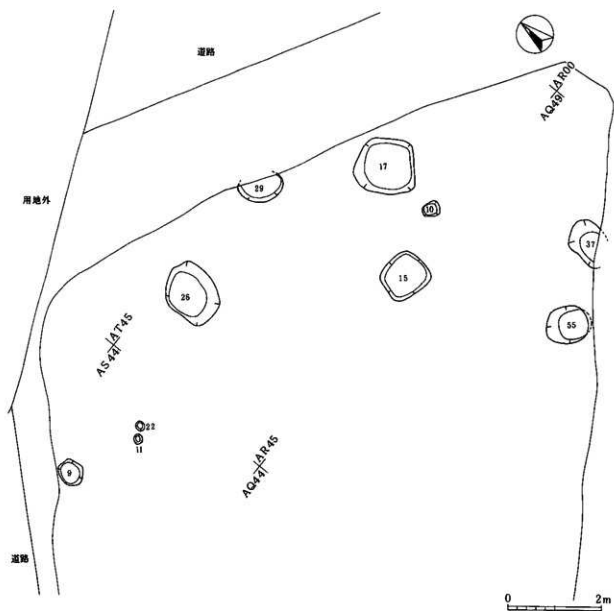
挿図50 KNJ 周辺ピット図



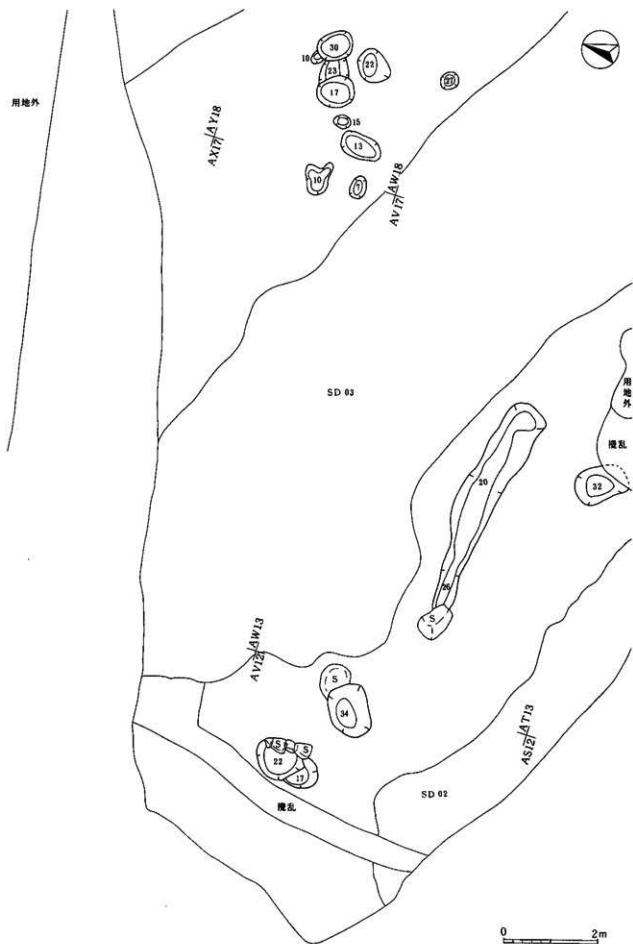
挿図51 KNJ 周辺ピット図2



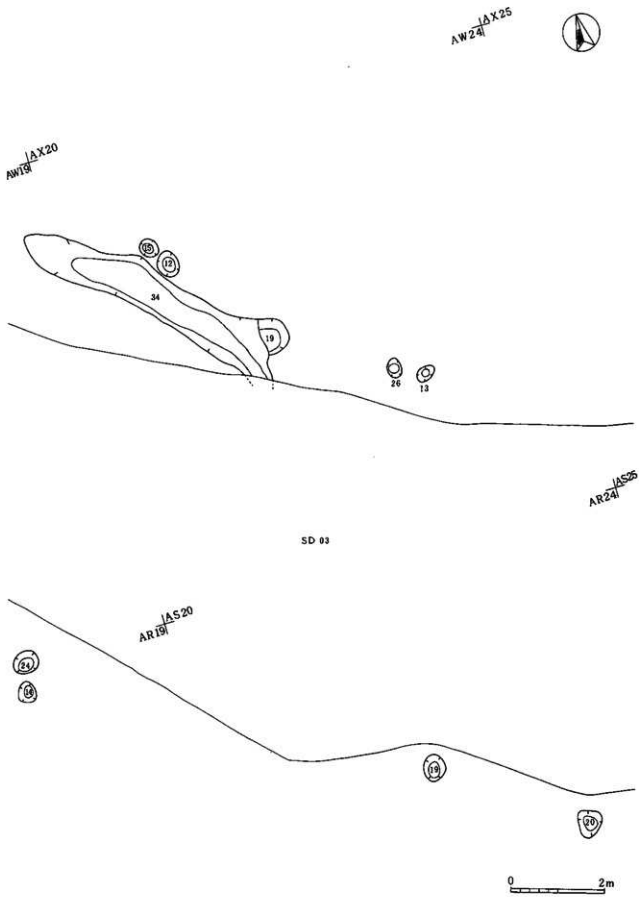
挿図52 KNJ 周辺ピット図3



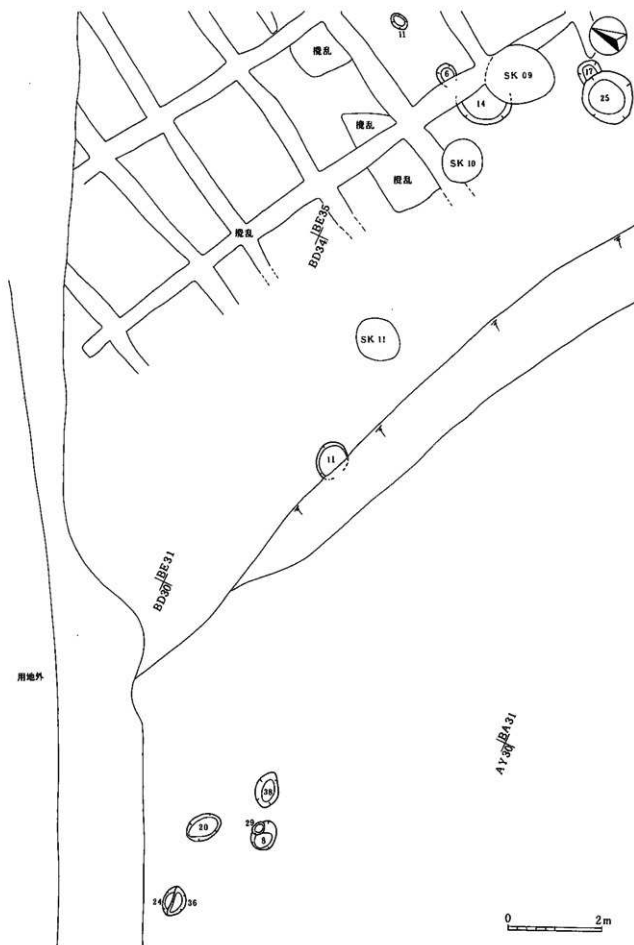
挿図53 KNJ 周辺ピット図4



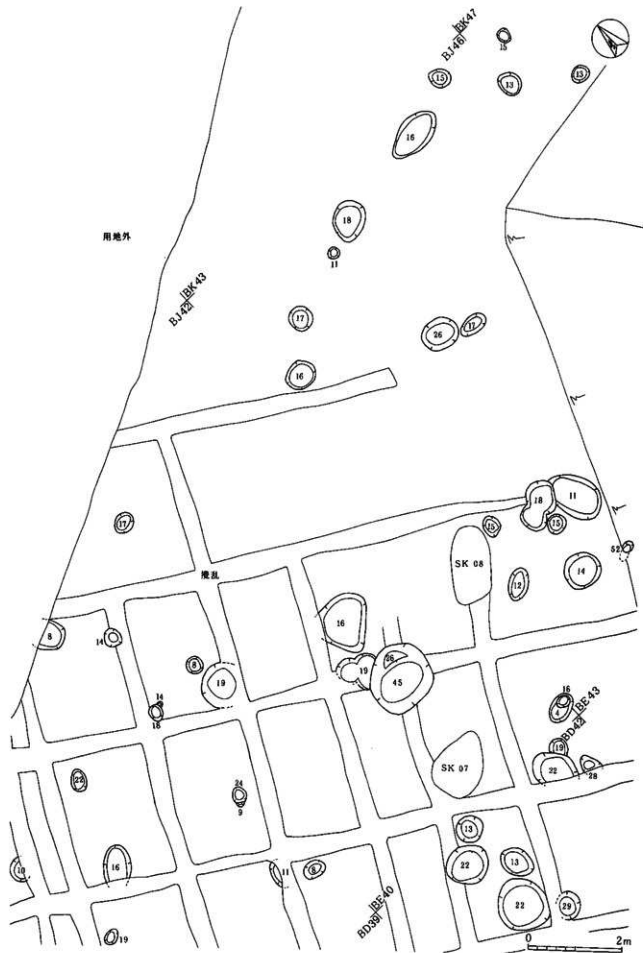
挿図54 KNJ 周辺ピット図5



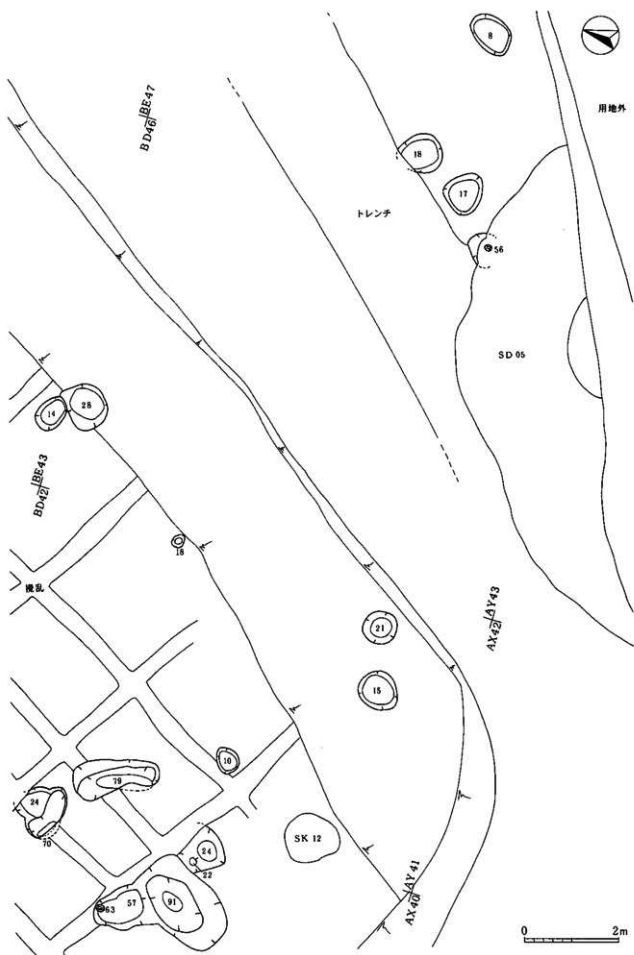
挿図55 KNJ 周辺ビット図6



挿図56 KNJ 周辺ピット図7



挿図57 KNJ 周辺ピット図8



挿図58 KNJ 周辺ピット図9

第IV章 ま と め

黒田垣外遺跡

当遺跡については、上郷町教育委員会にて実施した昭和62年度の調査を中心に、縄文時代から弥生時代にかけての住居址及び弥生時代の方形周溝墓等が数多く確認されており、この地に弥生時代を中心とした集落が形成されていた事がわかっている。

今回の調査は道路拡幅工事のため、限られた範囲での調査であったが、竪穴住居址4軒、方形周溝墓2基をはじめとした遺構が確認され、黒田垣外遺跡を理解する上で貴重な調査であった。

縄文時代は、該期に比定される遺構はほとんど確認されなかったものの、中期と思われる土器の破片資料が数点と、同時期と思われる土偶の足部が出土している。今次調査区より南側の、昭和62年度調査によって中期の集落跡が確認された位置は、直線距離で200m程南東側であり、この一帯は集落の外れに位置していた事が再確認された。

弥生時代に関しては、昭和62年度に実施した調査と同様、当遺跡における中心的な時代と言える。

出土した住居址のなかで、特にSB49とSB52は後期初頭で、過去の調査で出土した住居址よりも明らかに古く、住居址形態も用地外となって明確でない部分もあるが、長方形を呈している。

該期の集落が、このように高位段丘で出土したことは、伊那谷の集落を考える上で貴重な調査成果が得られといえる。

次に、住居址と方形周溝墓との関係であるが、SM13とSB49・SB52とは近接した位置関係にあり、両遺構間には時期差がある。住居址内の出土遺物には、座光寺原式土器の甕等が多く、方形周溝墓の周溝内から弥生後期後半に比定される中島式土器の甕が出土している。これらの事よりこの付近においては、弥生後期初頭に集落が営まれ、その集落が廃絶した後の弥生後期後半になって墓域として方形周溝墓が造られたと考えられる。この事実は昭和62年度調査の結果とも一致しており、あらためて垣外集落の広がりを確認できたと言える。

またSB50の出土により、遺跡北端には後期後半から終末の集落が存在すると言えよう。

今後の課題としては、当遺跡内で後期初頭から前半にかけて集落を営んだ人々の墓域の存在と、周溝墓を構築した人々の集落域の範囲はどのあたりかということである。前回調査においては、それぞれミカド遺跡、黒田垣外遺跡南東部と推測されており、それらは今後の発掘調査結果により、明らかとなるであろう。

今次調査は遺跡の部分的なものであり、それだけでは集落を論ずる事は不可能であるが、以前の調査結果と合わせて考えると垣外集落の様相がさらに見えてきた調査であった。

ミカド遺跡

今次調査では、遺物がなく床面が堅く明確に判断できた弥生時代の竪穴住居址SB03がある。1523-1・1522番地調査区では、南西側が低湿地となり、湧水する地形が明確に捉えられた。この地形変化から見ると、むしろSB03は北東側に広がる黒田垣外遺跡の弥生時代集落の一端と判断した方が自然であろう。

また出土した溝址SD09・10は、近世以降に下流の台地上に引水した水路の可能性が高く、その造り替えにより2本併行していると考えられよう。

今次調査区は遺跡の東端にあたり、遺跡の詳細を明らかにする結果とはならなかった。以前、上郷町教育委員会で広範囲を調査し、方形周溝墓等が確認されているわけであるが、その調査においても竪穴住居址は、時期不明が1軒出土したのみであり、集落については明らかとなっていない。今後の調査により明らかとなることを期待する。

増田遺跡

当遺跡における調査は、昭和62年度の上郷町教育委員会によって行われた下黒田地区の基盤整備事業に先立つ発掘調査（1989上郷町教育委員会）が最初である。当時の調査では、縄文時代中期初頭から後葉にかけての住居址が17軒、弥生時代後期の住居址が1軒出土しており、縄文時代中期中葉から後葉を中心に継続して存在した集落の様相を明らかにした。

今次調査区は、前回調査した地点とはほぼ隣接しており、今回確認された遺構は、住居址6軒、土坑28基等であり、縄文時代の遺構が中心である。最古相はSK108、111より出土した縄文時代前期末の土器である。破片資料であるが、縄文地文に半藁竹管状工具による刺突文が施された隆帯が貼られており、その特徴から関西系の大歳山式に比定される。この土器の良好な資料は近隣の黒田大明神原遺跡（1997飯田市教育委員会）から出土しており、該期において飯伊地方は関西地方の影響を少なからず受けていた事が確認されている。

縄文時代中期の遺構は密にあり、該期が当遺跡の中心的な時代と言えよう。中期においても特に、後葉に比定される遺構が多く、SB19、20の住居址をはじめSK99、114等多くの土坑が確認されている。住居址については、SB20と19が切り合い関係にあり、出土土器の様相よりある程度の年代幅が考えられる。また、SK99に関しては加曾利EⅣ式と類似した深鉢がほぼ完形で伏せられた状態で確認されており、その性格についてはさらに検討を要する。これらの住居址・土坑については、その時代及び位置関係から見ると前回調査時で確認された集落と関連のある遺構の一部と考えられる。

縄文時代後期については、SK97、107が該期の土坑にあたり、SK97からは第8図10にて示すとおり、完形ではないが終末に比定される良好な深鉢が出土している。該期にあたる住居址等は今回の調査で確認されなかったが、周辺地域にその存在を予感させる。

弥生時代は、湿地を挟んで隣接する黒田垣外遺跡が該期の主要な集落跡と考えられるが、当遺跡においても住居址が確認されている。

前回の調査時に後期前半のものが南側で1軒確認され、今回も調査区西側に同時期の住居址が2軒出

土し、地形等周辺環境を考慮すると、北西側に集落が展開されると推測できる。また調査区の約200m北側、昭和62年度調査のミカド遺跡第Ⅱ調査区とした位置で、後期と考えられる方形周溝墓が2基確認されている。この2基は、ミカド遺跡内にて出土している他の方形周溝墓と、立地場所・主軸等が異なり特異な存在である。また、増田遺跡と同一台地上にあることより、今次調査にて確認された住居址と、ミカド遺跡の方形周溝墓との関係も少なからず推測される。

道路建設という限られた範囲での調査であり、遺跡の全容を把握するまでには至らなかったが、隣接する前回調査の遺構と合わせて考えると、細長く比較的狭い舌状台地上に、縄文時代中期を中心に集落が営まれていた事が理解できる。

周辺地域の調査では、台地の周辺には湿地帯が広がっていた事が確認されており、このような環境と集落立地との関係等を、今後さらに検討していく必要がある。

見城垣外遺跡

当遺跡については、戦前から遺物が多量に出る場所として知られており、大正時代には鳥居龍藏氏によって調査がされ、縄文時代中期の住居址を検出したと言われている。その後も、周辺からは様々な遺物が表採資料として上げられており、この地に何らかの遺構が包蔵されていると考えられていた。

今回の調査では、縄文時代中期の竪穴住居址1軒の他、各期の土坑・溝址等が検出された。

縄文時代は、早期後葉の東海系条痕文土器が破片ではあるがSK18より出土しており、当遺跡の最古相を示している。これは胎土に繊維を多く含み、器面の内外面に貝殻による条痕及び上部に刺突文が施文されており、杣畑式土器に比定される。

また、SK05からは前期末の関西系大蔵山式土器が、SK03・04・16・17より中期初頭に位置付けられる集合沈線文系の五領ヶ台式土器が出土し、住居址は確認されなかったものの、古くより生活域であったことを示すことができた。

中期中葉については、SK09より破片資料が、SD03より中期初頭の遺物とともに出土する。また出土した唯一の住居址は、中期中葉末に位置付けられるものであり、これのみで集落について論ずることは難しいが、西側に野底川、東側は段丘崖下の湿地である状況を考えると、集落が形成される場所は北西から南東へかけて緩やかに傾斜する狭い範囲に限られ、さらにそれを二分するように、SD03・04があることより、栗屋元遺跡に近い遺跡南側もしくは調査区の北側へ展開するものと推測でき、SD03から土器が多く出土していることから、上流である北側に広がる集落の存在が予測できよう。

弥生時代については、明確な遺構が確認されず不明であるが、SK07より蛤刃石斧の未製品、SD04より有肩扇状石器、SD05より磨製石鏃の未製品などが出土しており、少数ではあるが遺物が確認されることより、周辺では弥生時代の集落が存在することも考えられる。

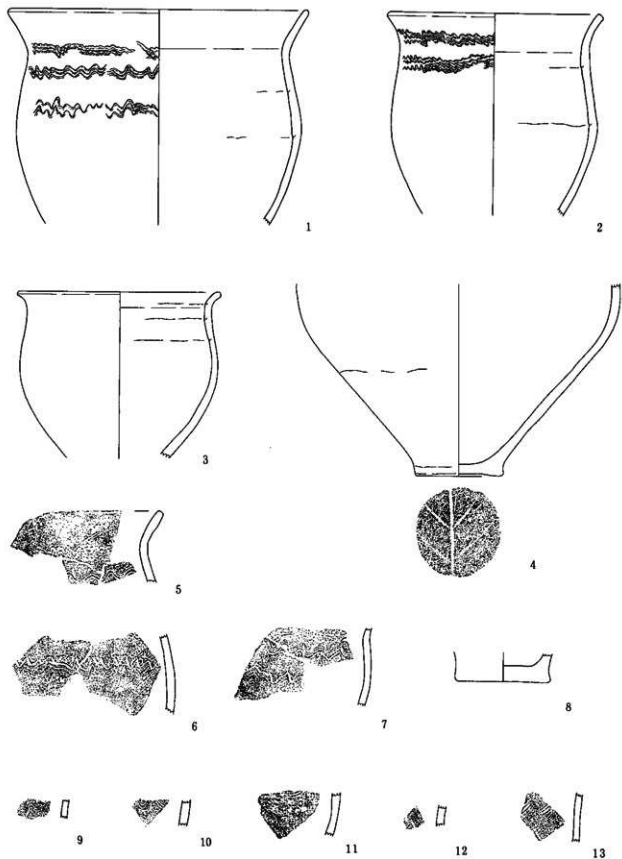
その他時期は不明であるが、SD03・04は堆積状況等より自然流路と判断でき、縄文時代中期以降ある時期に、現野底川の一部が流れたのであろう。

古墳時代に比定される遺構・遺物は確認されていないが、平成8年度に実施した市内遺跡詳細分布調査においても、該期遺物が表採されていることより、煙滅古墳あるいは集落の存在する可能性は高いといえる。

今回の調査で当遺跡の性格を論じきることは不可能であるが、現況では判断できなかった地形的な変化、集落址の存在を予想させる住居址の出土等、本遺跡の一端が明らかにされた。全容の解明にはまだまだ至っていないが、今後の周辺で行われる調査により、明らかにされることを期待したい。

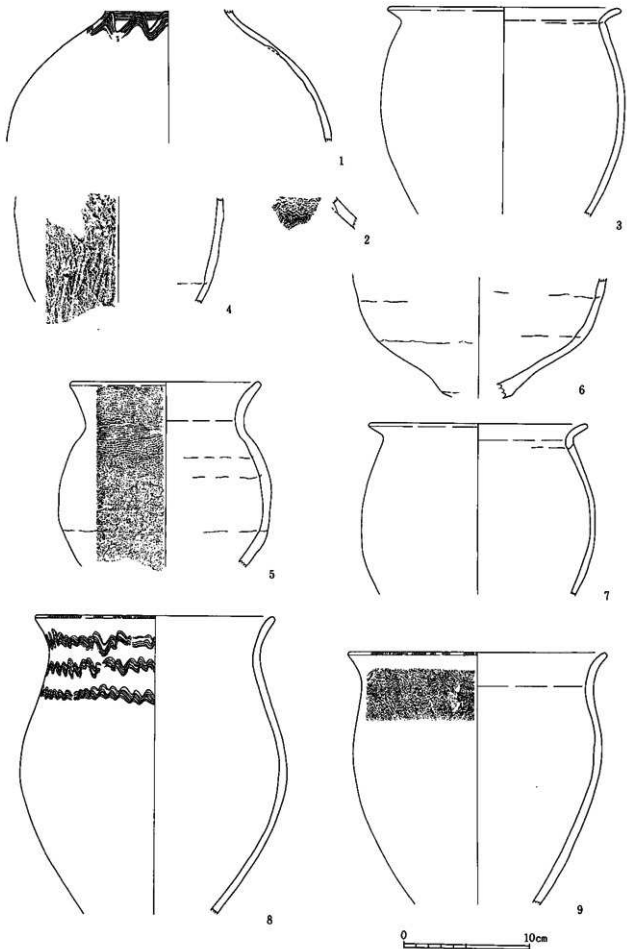
参 考 文 献

- | | | |
|-------------|------|--|
| 下伊那教育会 | 1991 | 『下伊那史』第1巻 |
| 飯田市教育委員会 | 1998 | 『飯田の遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1998 | 『美女遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1999 | 『黒田大明神原遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1999 | 『大門原遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1999 | 『三尋石遺跡Ⅲ、Ⅳ』 |
| 飯田市教育委員会 | 1999 | 『座光寺中島遺跡』 |
| 上郷町教育委員会 | 1989 | 『ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡』 |
| 上郷町教育委員会 | 1988 | 『兼田遺跡』 |
| 長野県考古学会弥生部会 | 1999 | 『長野県弥生土器集成図録』 |
| 山下誠一 | 2000 | 「飯田盆地における弥生集落の動向一 発掘調査された竪穴住居址を基にして」『飯田市美術博物館 研究紀要 第10号』 |

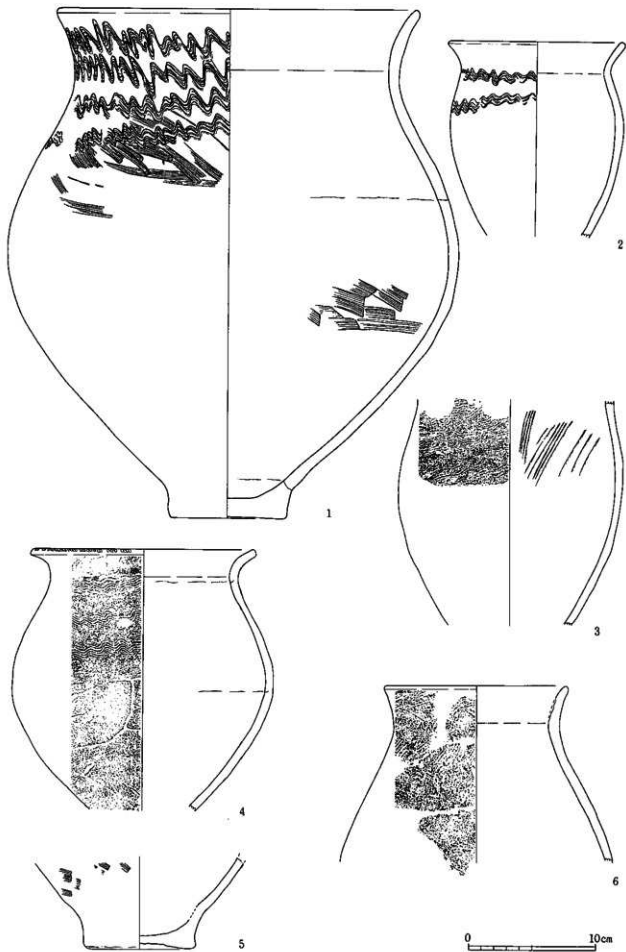


0 10cm

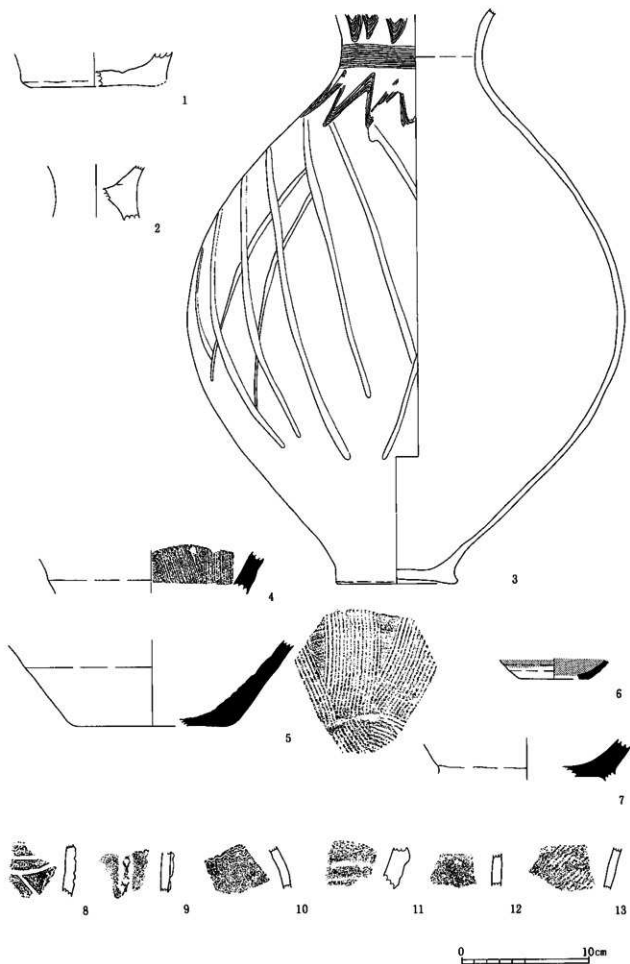
第1圖 KIT SB49 (1~13)



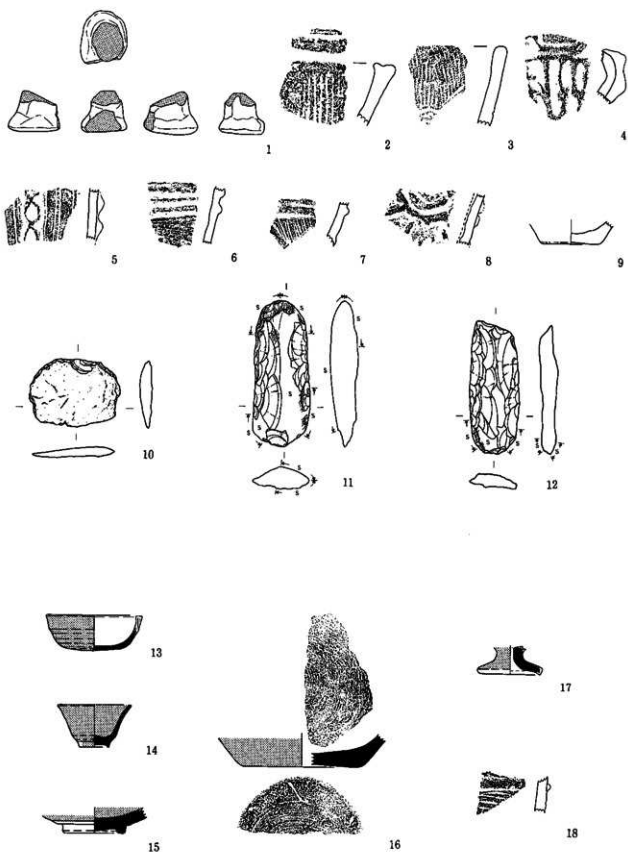
第2図 KIT SB50 (1~4) · SB51 (5~7) · SB52 (8~9)



第3図 KIT SB52 (1~6)

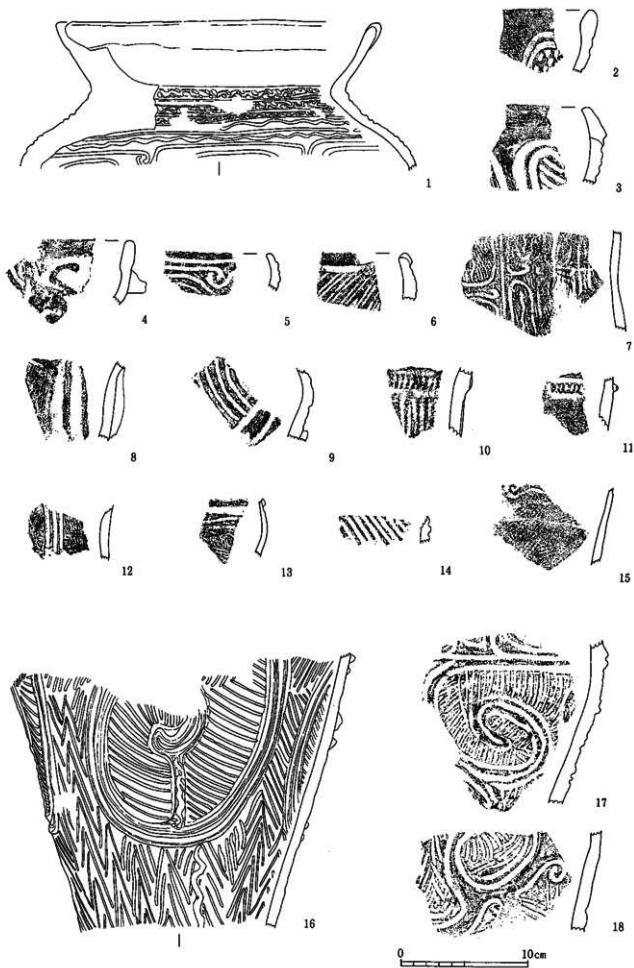


第4図 KIT SM12 (1~2)・SM13 (3)・SD20 (4~5)・SD21 (6~7)・SD22 (8)
SD23 (9~10)・SK132 (11)・SK134 (12)・SK136 (13)

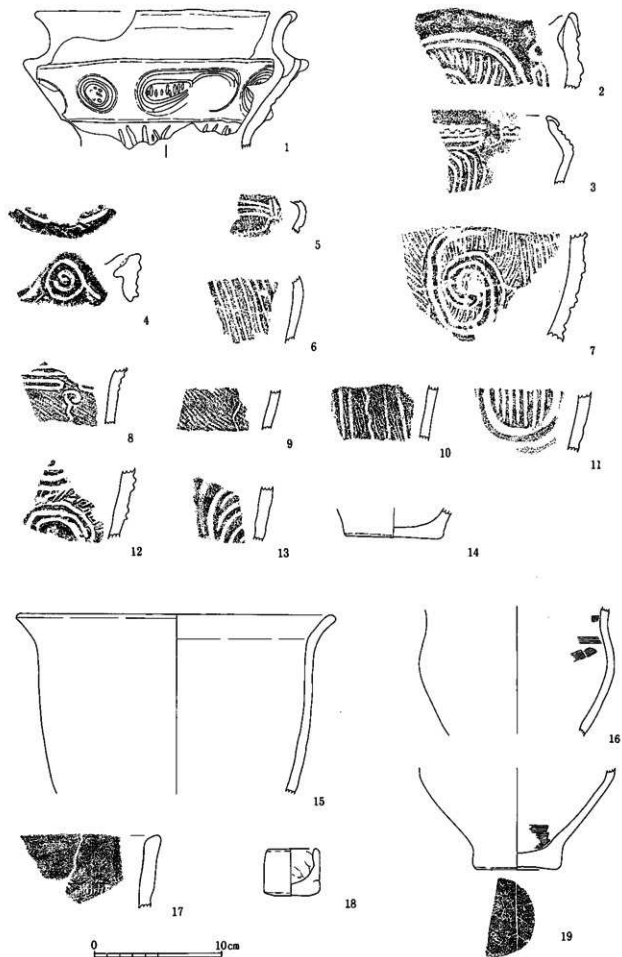


0 10 cm

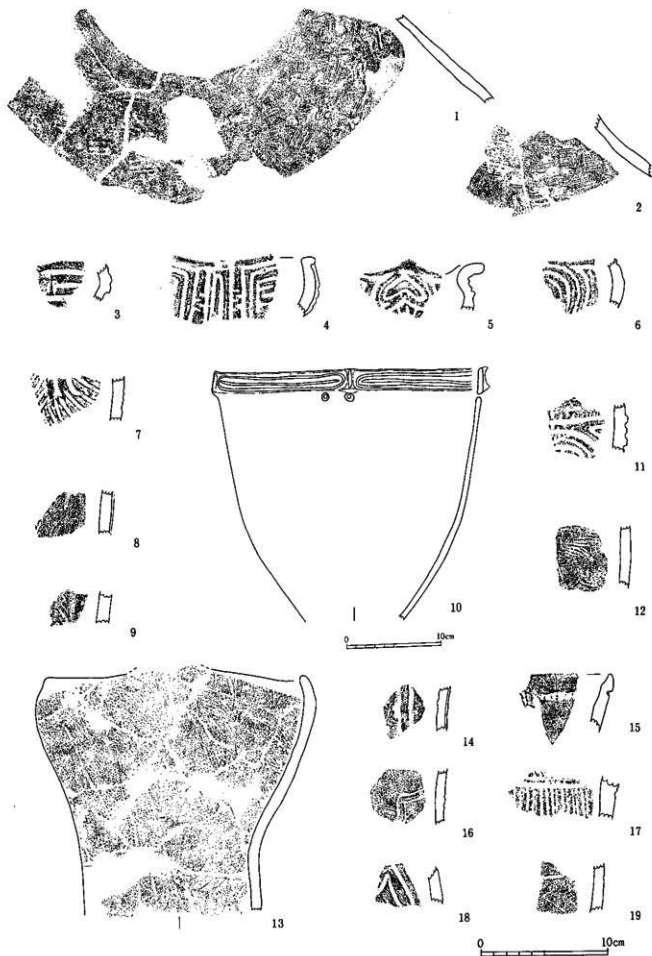
第5図 KIT 遺構外 (1~9)・SB51 (10)・SMI2 (11~12) MKD SD09 (13~17)・SD10 (18)



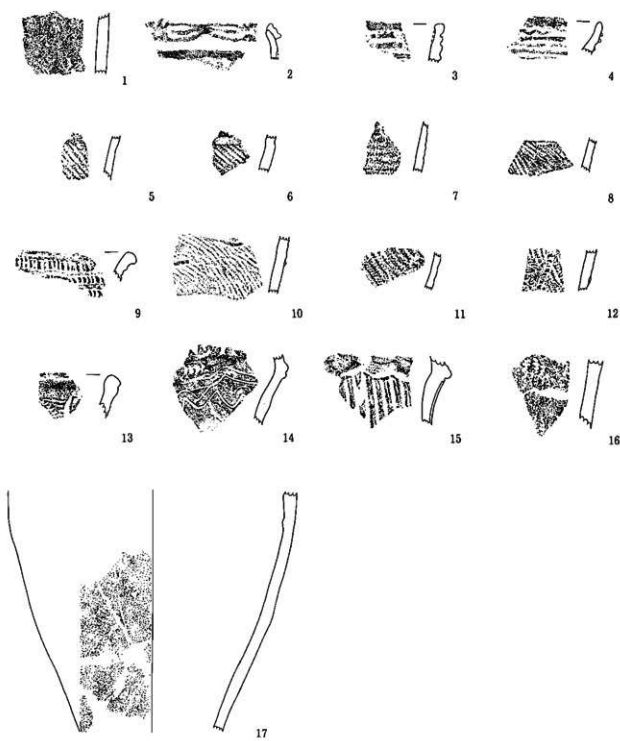
第6圖 MSD SB19 (1~15) · SB20 (16~18)



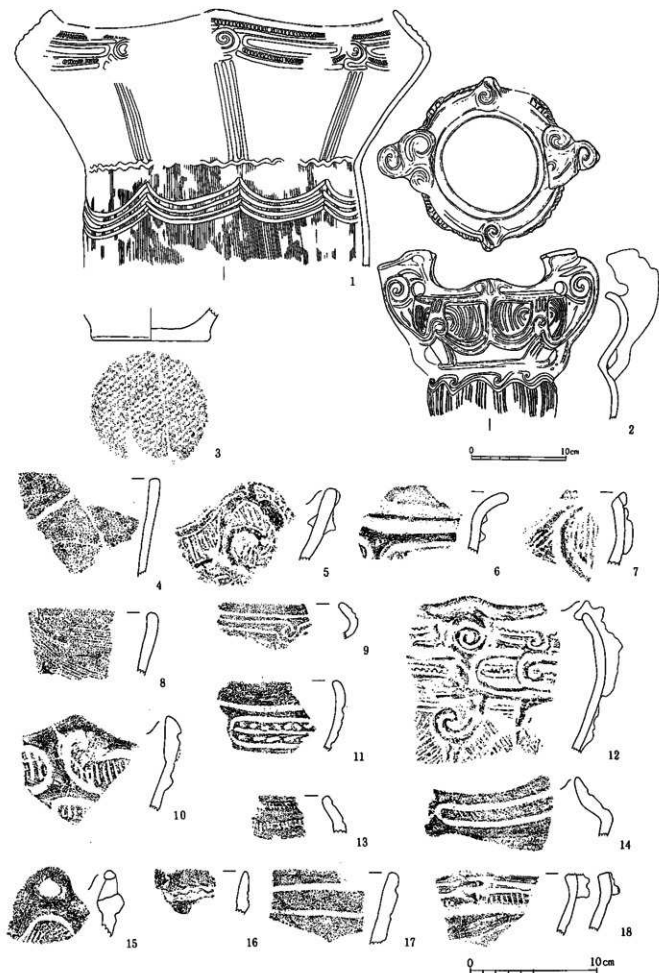
第7图 MSD SB20 (1~14) SB21 (15~19)



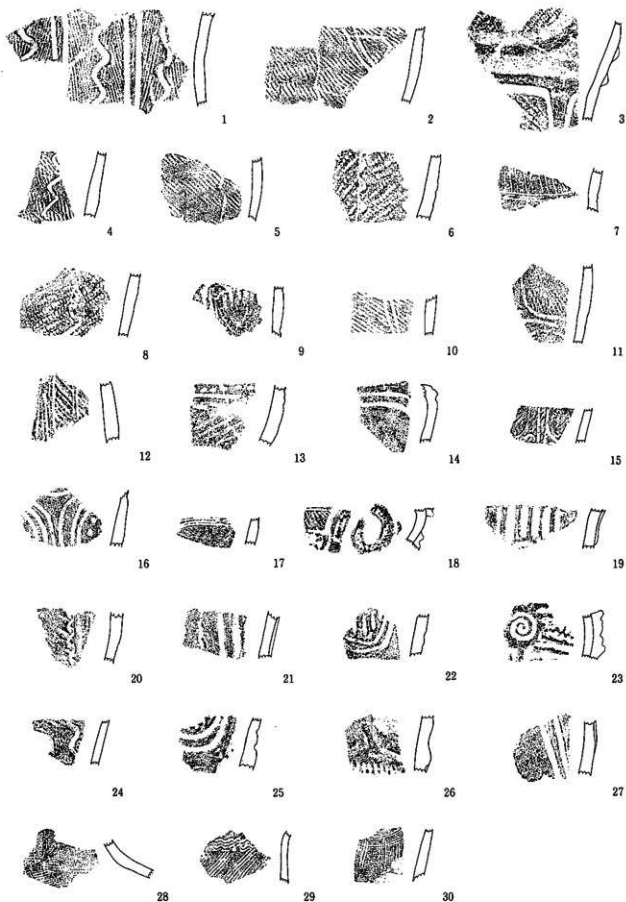
第8图 MSD SB22 (1~2) · SK90 (3) · SK93 (4~6) · SK95 (7) · SK97 (8~10)
SK98 (11~12) · SK99 (13) · SK100 (14) · SK103 (15~18) · SK104 (19)



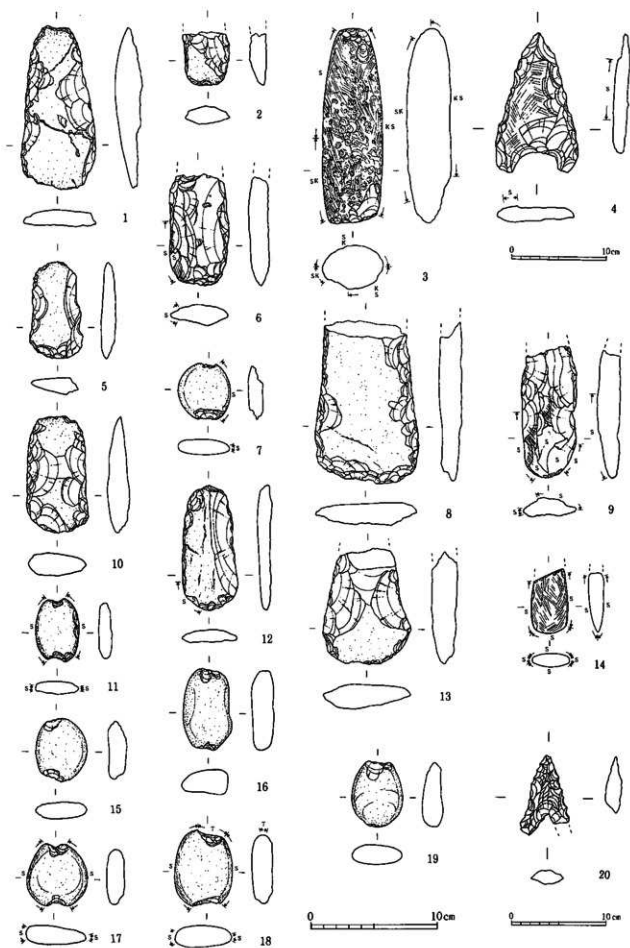
第9圖 MSD SK106 (1) · SK107 (2) · SK108 (3~8)
SK111 (9~12) · SK112 (13~16) · SK113 (17)



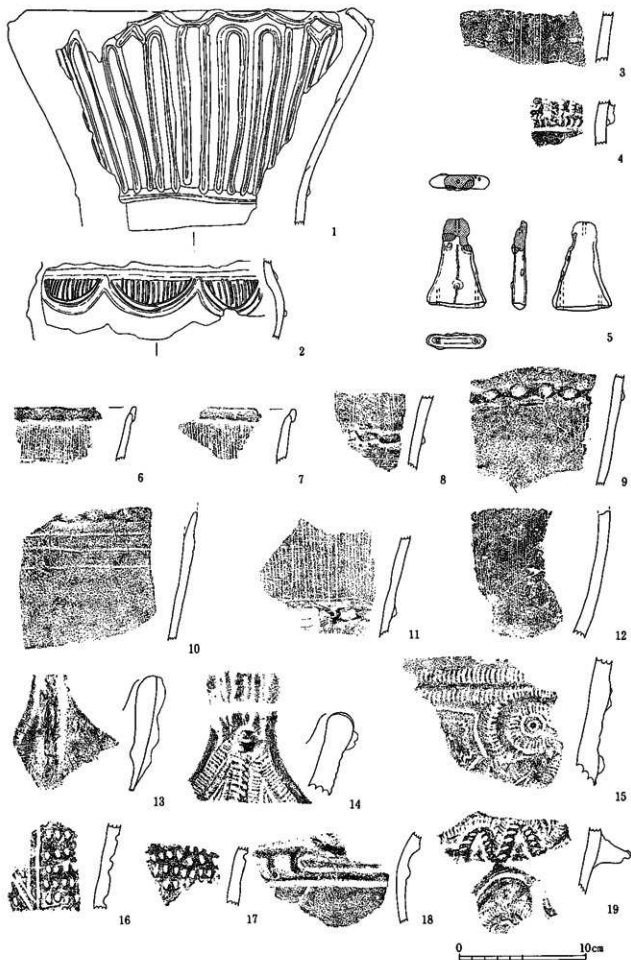
第10図 MSD SK114 (1~2)・遺構外 (3~18)



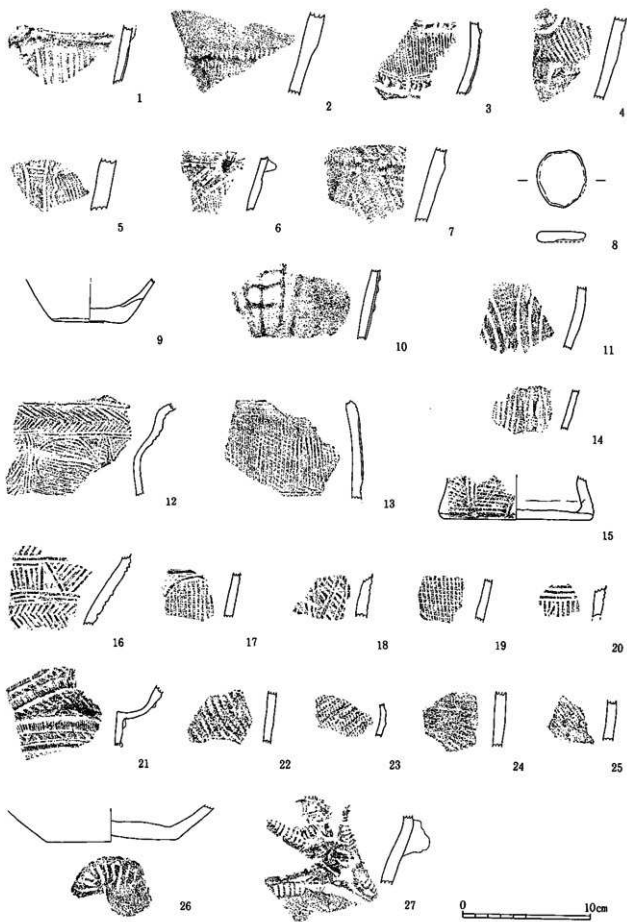
第11圖 MSD 遺構外 (1~30)



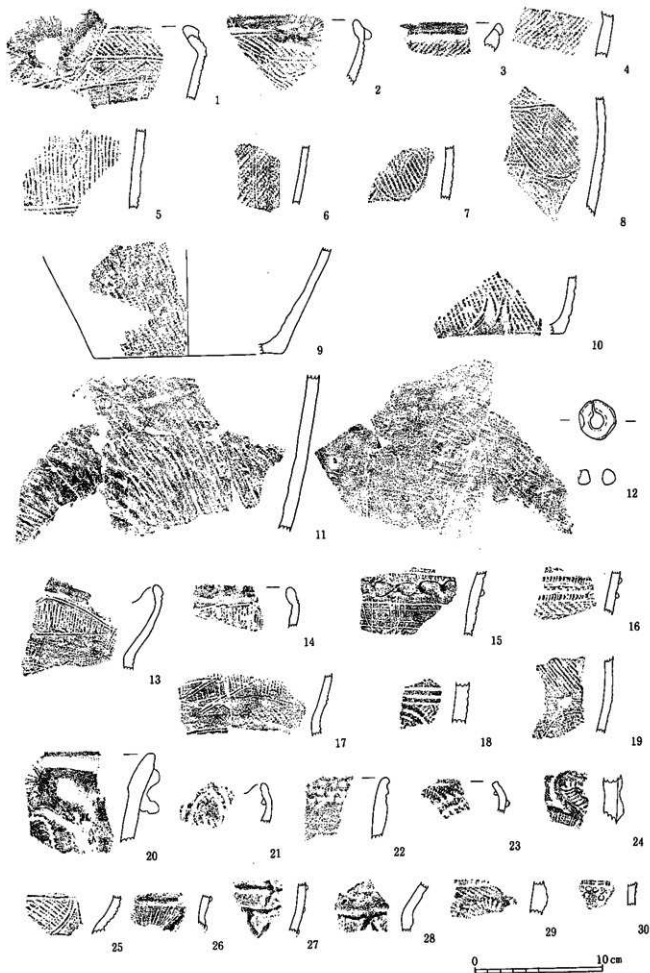
第12図 MSD SB22 (1~4) · SK104 (5) · SK108 (6) · SK112 (7) · 遺構外 (8~20)



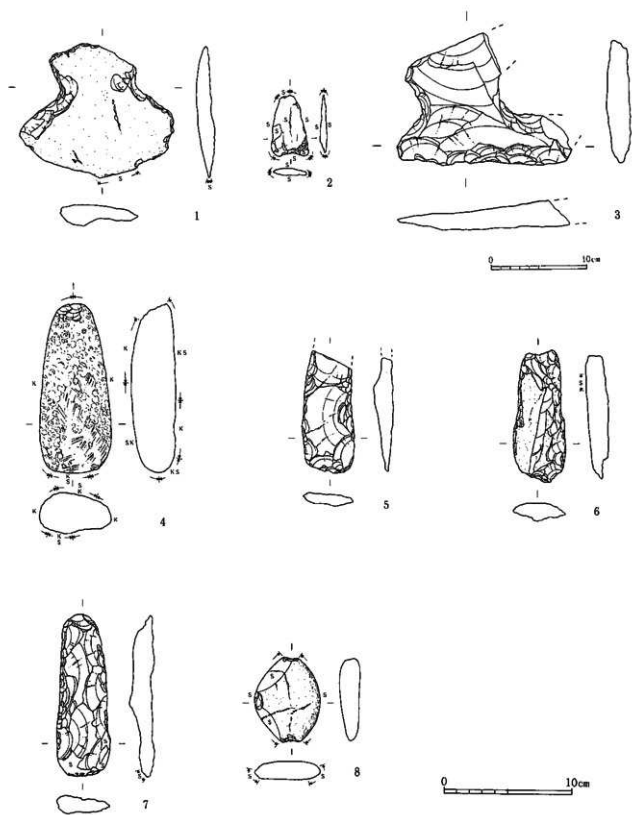
第13图 KNJ SB01 (1~5) · SD03 (6~19)



第14图 KNJ SD03 (1~8) · SD04 (9) · SD05 (10~11) · SK03 (12~15)
SK04 (16~20) · SK05 (21~23) · SK07 (24~26) · SK09 (27)



第15図 KNJ SK16 (1~10)・SK18 (11)・遺構外 (12~30)



第16図 KNJ SD04 (1)・SD05 (2~3)・SK07 (4)・SK14 (5)・SK16 (6)・遺構外 (7~8)

○発掘調査
黒田垣外遺跡



遺跡調査区全景



調査区全景
(1778-1)



調査区全景 (1773-5)



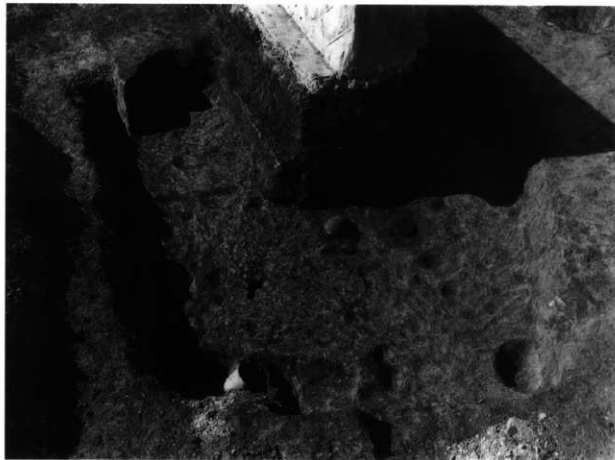
調査区全景 (1775-6)



SB49



SB50



SB51



SB51 炉



SB52



SB52 遺物出土状態



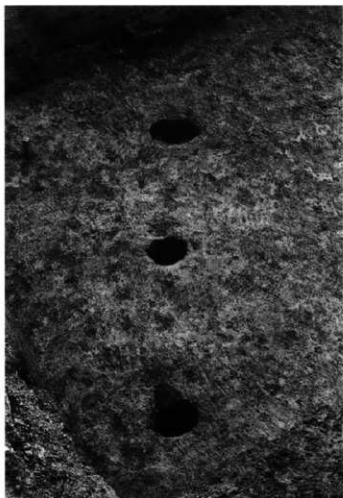
SM12



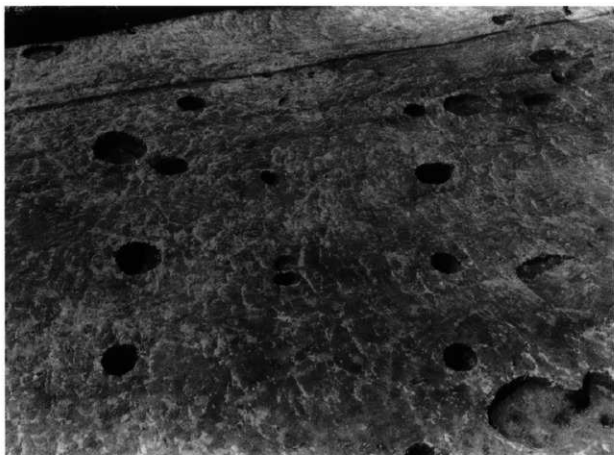
SM13



SM13 出土壺



ST09



ST10



SD20



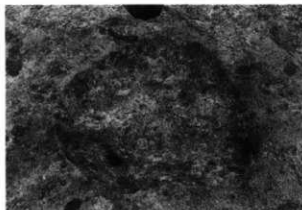
SD21



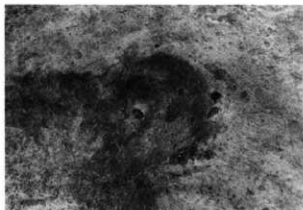
SD23 (1772-1)



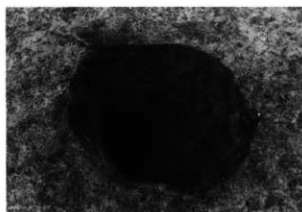
SD23 (1773-5)



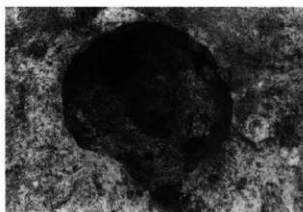
SK111



SK112



SK113



SK114



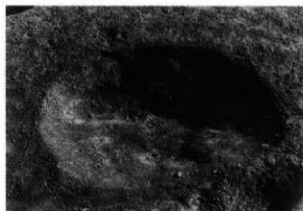
SK119



SK120



SK121



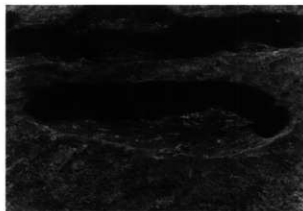
SK122



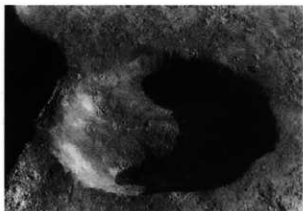
SK123



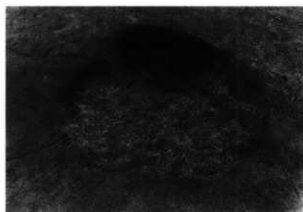
SK124



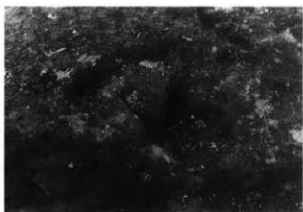
SK125



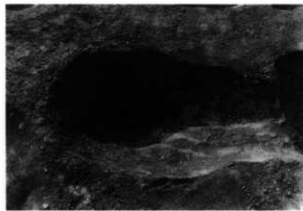
SK126



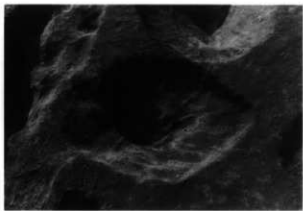
SK127



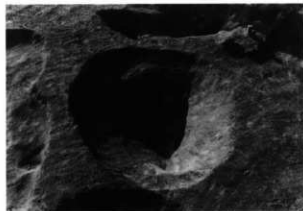
SK128



SK129



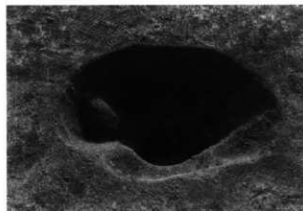
SK130



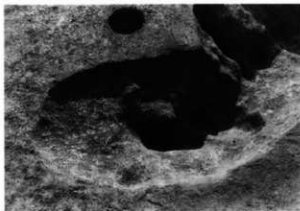
SK131



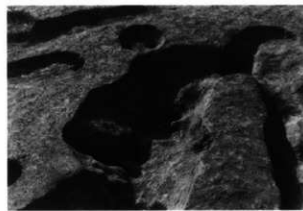
SK132



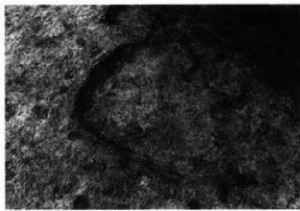
SK133



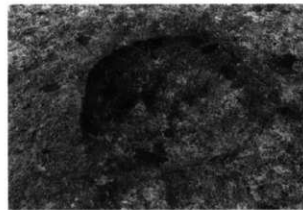
SK134



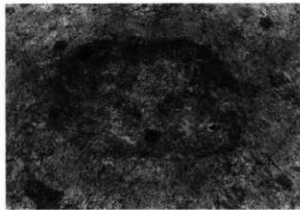
SK135



SK136



SK138



SK139



重機表土剥ぎ作業
(1778-1)



重機表土剥ぎ作業
(1772-1)



重機表土剥ぎ作業
(1775-6)



調査風景(1778-1)



調査風景(1773-3)



調査風景(1775-6)



調査区遠景



調査区全景 (1749-4)



ピット (1522)



SB03



SD09・10



調査風景



重機表土剥ぎ作業

増田遺跡



調査区全景(1348-7)



調査区全景 (1348-8)



調査区全景 (1345)



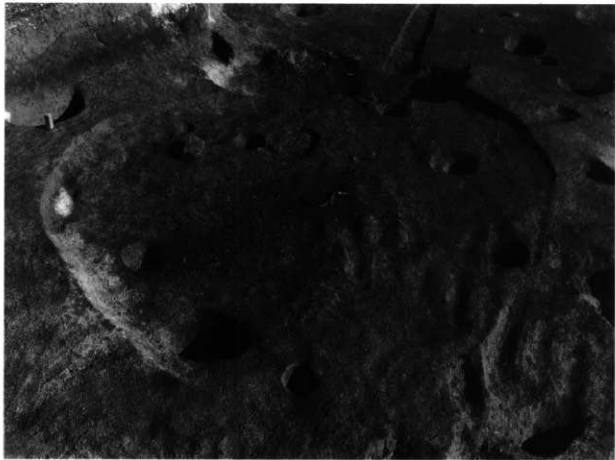
SB19



SB20



SB20 埋葬



SB21



SB21 炉



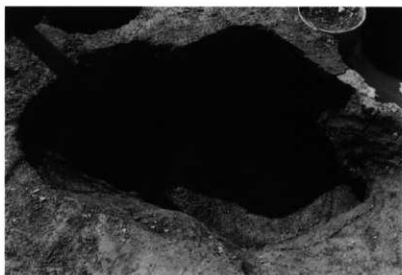
SB22 (1218-4)



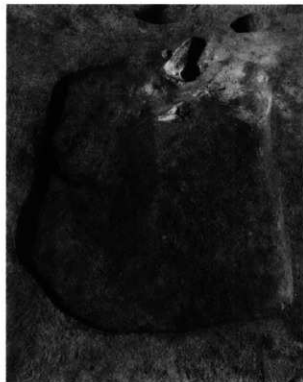
SB22 (1348-7)



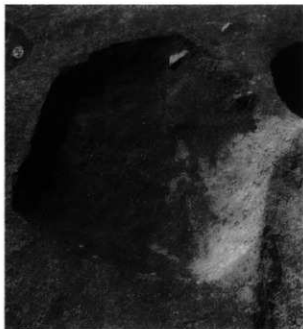
SB22 炉



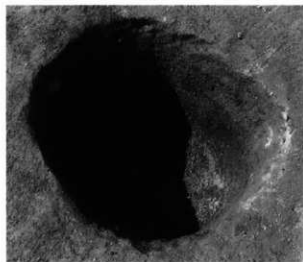
SK87



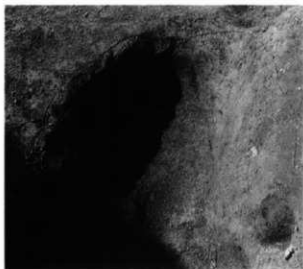
SB23



SB87



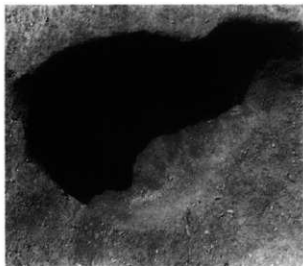
SK88



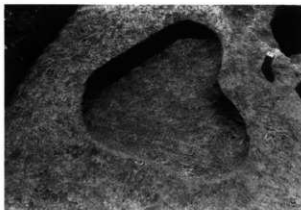
SK90



SK91



SK92



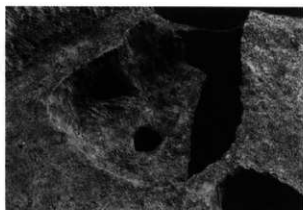
SK93



SK94



SK95



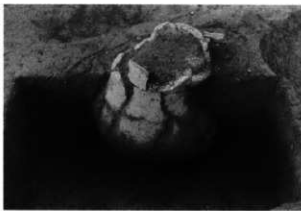
SK96



SK97



SK97 出土土器



SK99 出土土器



SK99



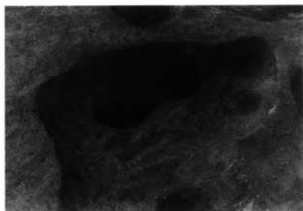
SK101



SK102



SK110



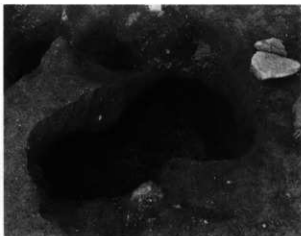
SK98 · 100



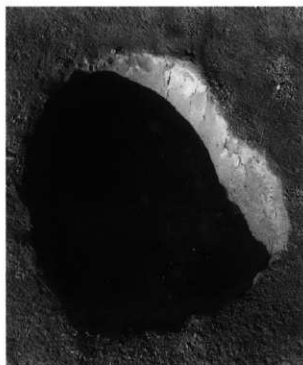
SK103



SK106



SK108 · 111



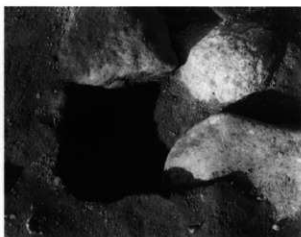
SK109



SK114



SK113 出土土器



SK113



調査風景



調査風景



調査風景

実測作業風景



実測作業風景



重機表土剥ぎ作業





調査区遠景



調査区遠景



調査区全景(2762-5)



調査区全景(2762-5)



調査区全景(5518)



調査区全景(2725-3)



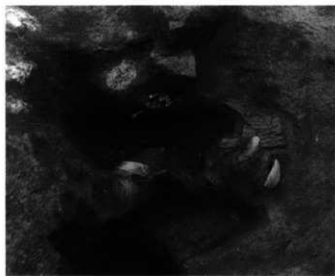
調査区全景(800)



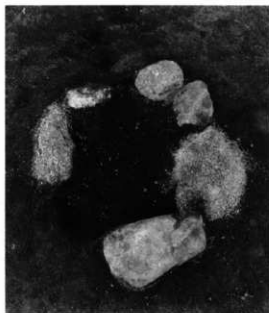
調査区全景(800)



SB01



SB01 ピット



SB01 炉



SD02



SD03



SD04



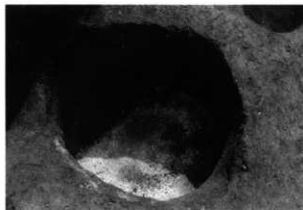
SD05



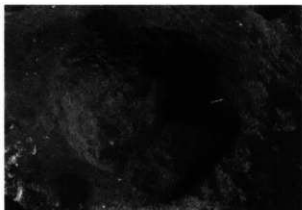
SK01



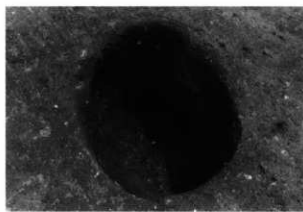
SK02



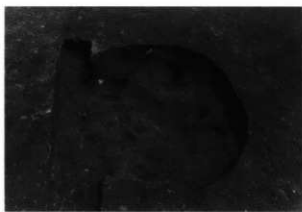
SK03



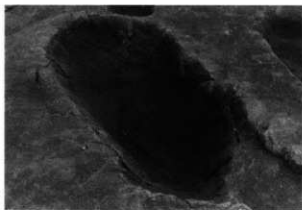
SK04



SK05

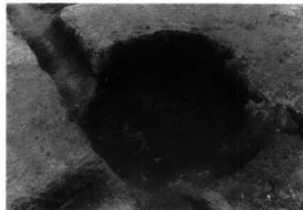


SK06



SK08

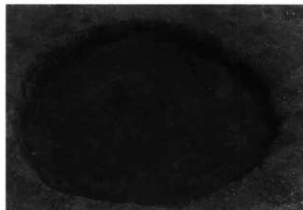
SK07



SK09



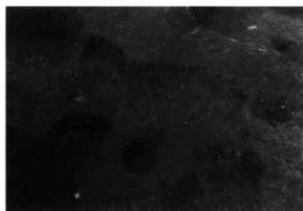
SK10



SK11



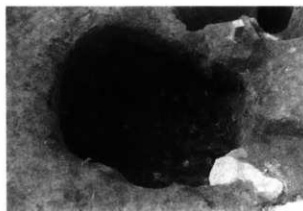
SK12



SK14



SK15



SK16



SK17



SK18



試掘調査風景



調査風景



作業風景



作業風景



作業風景



空中写真撮影作業



基準点設置作業



測量作業



重機表土剥ぎ作業



重機表土剥ぎ作業



重機表土剥ぎ作業

○整理作業



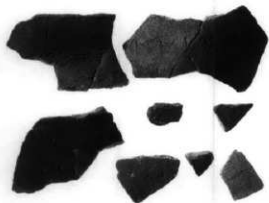
遺物写真撮影作業



遺物実測作業



図版作成作業



SB49



SB50



SB51



SB52





SB52



SM13



SD·SK



SM12





遺構外



SB・SM

ミカド遺跡



SD

増田遺跡



SB19



SB20



SB19



SB20



SB21



SB22



SK



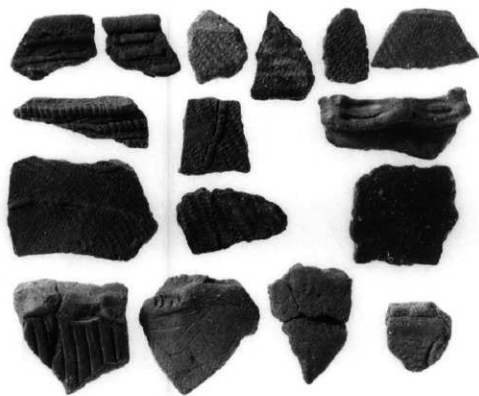
SK97



SK99



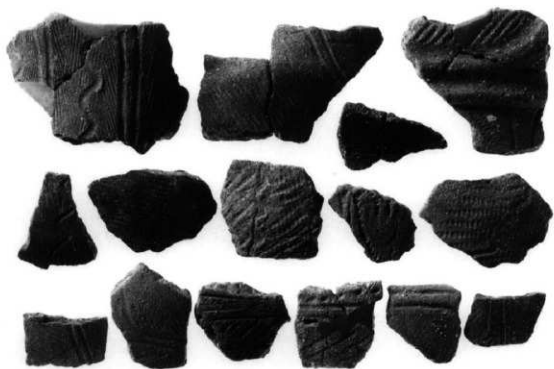
SK114



SK



遺構外



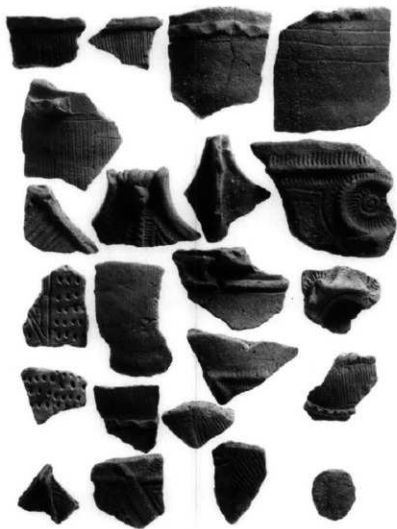
遺構外



SB・SD・遺構外



SB01



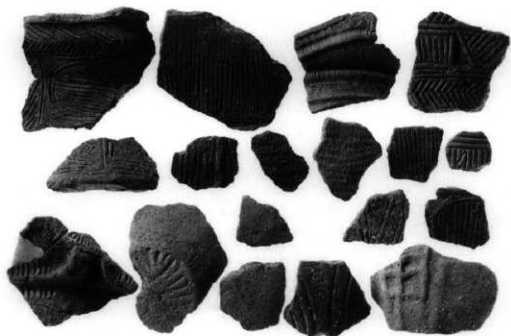
SD03



SD04



遺構外



SK · SD



SK



遺構外



SD・SK・遺構外

報 告 書 抄 録

ふりがな	くろだかいと みかど ますだ けんじょうがいと							
書名	黒田垣外・ミカド・増田・見城垣外遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	福澤好晃 坂井勇雄							
編集機関	飯田市教育委員会							
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 Tel 0265-53-4545							
発行年月日	西暦2001年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 名所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村遺跡番号						
くろだかいと 黒田垣外遺跡 みかど ミカド遺跡 ますだ 増田遺跡 けんじょうがいと 見城垣外遺跡	いだしかみさとくろだ 飯田市上郷黒田 いだしかみさとくろだ 飯田市上郷黒田 かみさとべつぶ 上郷別府	2053		35°	137°	平成9年 9月18日 ～ 平成13年 3月19日	黒田垣外遺跡 1,150 ミカド遺跡 640 増田遺跡 460 見城垣外遺跡 2,170	県道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
黒田垣外遺跡	集落址	弥生時代	竪穴住居址 方形周溝墓 建物址 溝址 土坑	4軒 2基 2棟 4条 29基	弥生時代後 期初頭から 後期終末の 土器	弥生時代後期における 集落、墓城		
ミカド遺跡	集落址	弥生時代	竪穴住居址 溝址 土坑	1軒 2条 1基	陶器	湿地際		
増田遺跡	集落址	縄文時代 弥生時代	竪穴住居址 土坑	2軒 14基	縄文時代中 期後葉、後 期後葉の土 器	縄文時代中期後葉の 集落址の一部		
見城垣外遺跡	集落址	縄文時代	竪穴住居址 土坑 溝址	1軒 7基 5条	縄文時代中 期初頭から 中葉の土器	縄文時代中期中葉の 住居址1軒確認		

黒田垣外遺跡・ミカド遺跡・増田遺跡・見城垣外遺跡

2001年3月19日 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

飯田市教育委員会

印刷 杉本印刷株式会社
